令和
７年度

工事事故防止
事前学習会

横浜市
建築保全公社

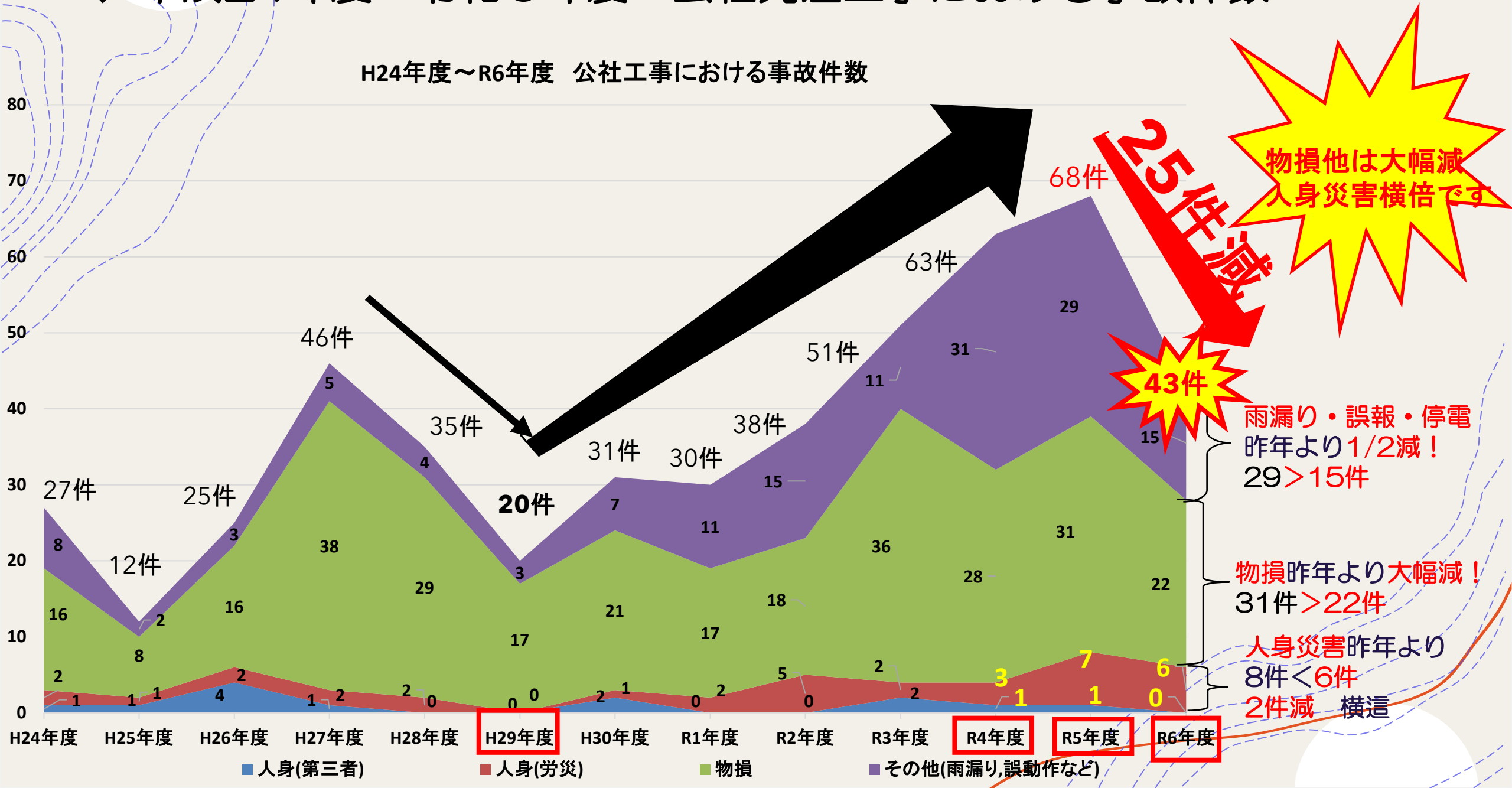
目配り　気配り　思やり
みんなで創る
ゼロ災害　ヨシ!!

今日の学習会を通して、新たな気持ちでこれから始まる工事を

「**絶対無事故・絶対無災害・絶対無違反**」

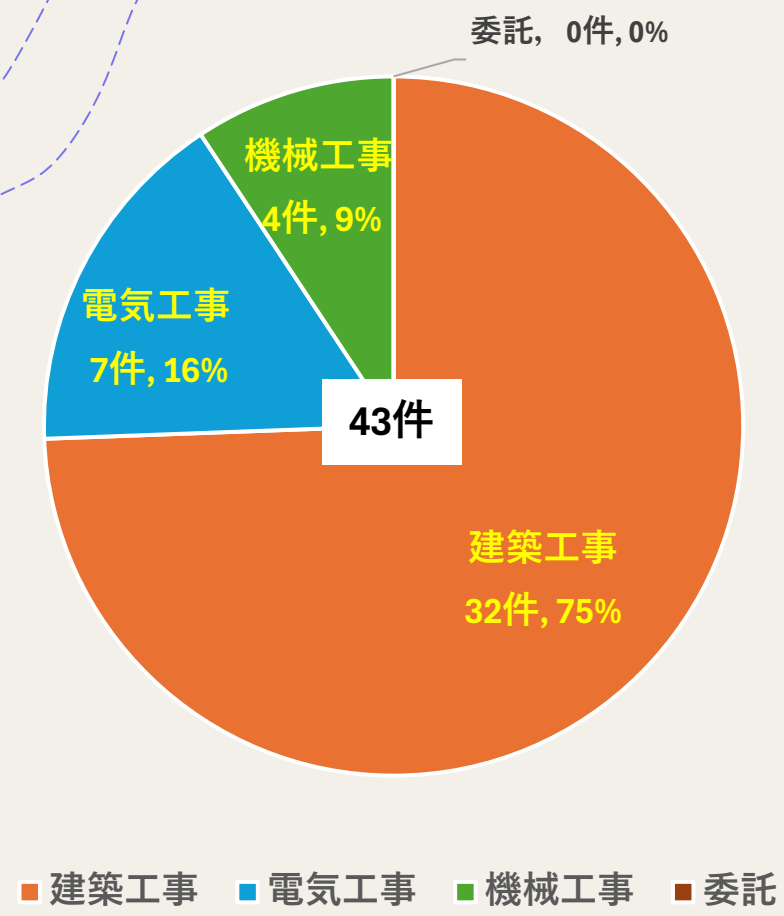
との心構えで進めて行きましょう！

◆ 平成24年度～令和６年度　公社発注工事における事故件数

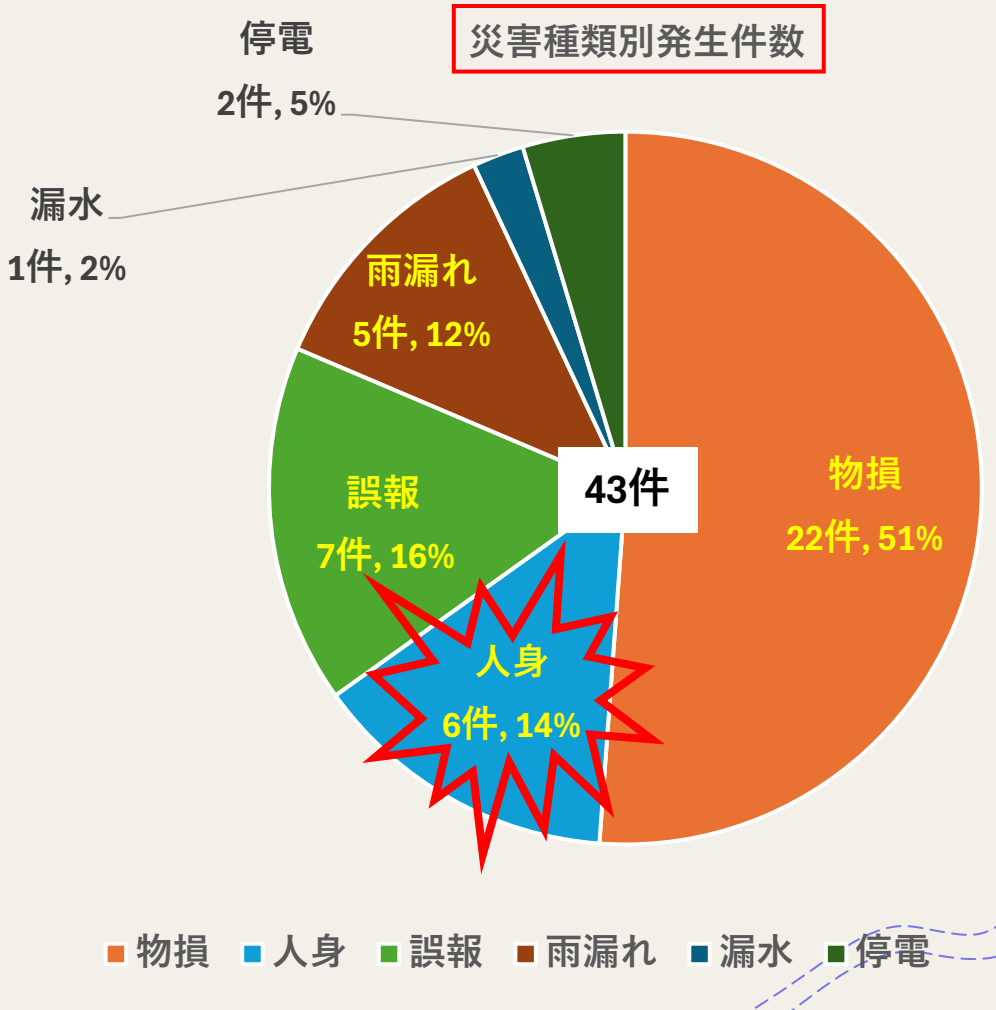


◆令和６年度　公社発注工事における事故等件数

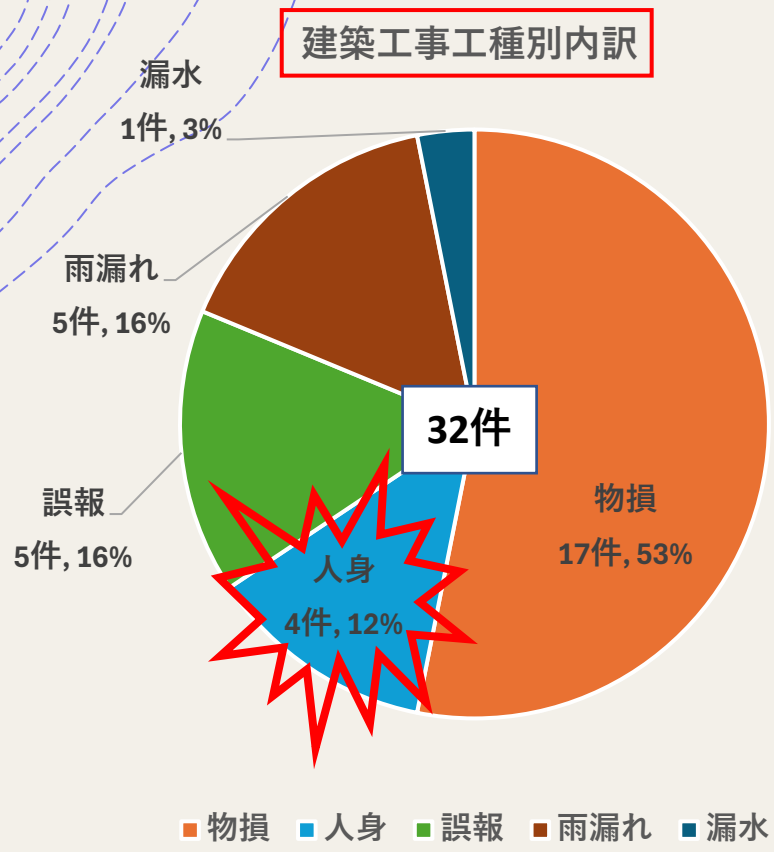
工事別事故発生件数

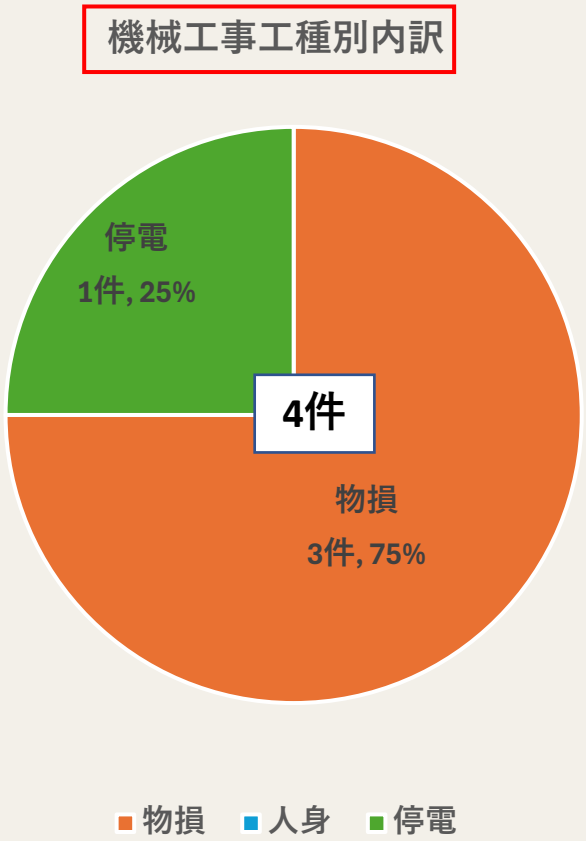


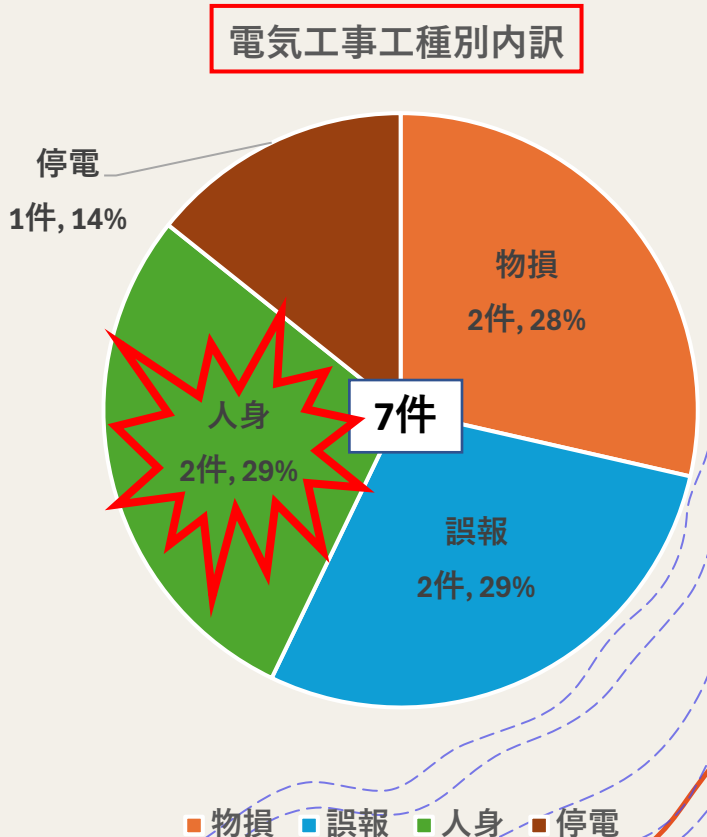
災害種類別発生件数



◆ 令和６年度公社発注工事における工事・工種別事故件数



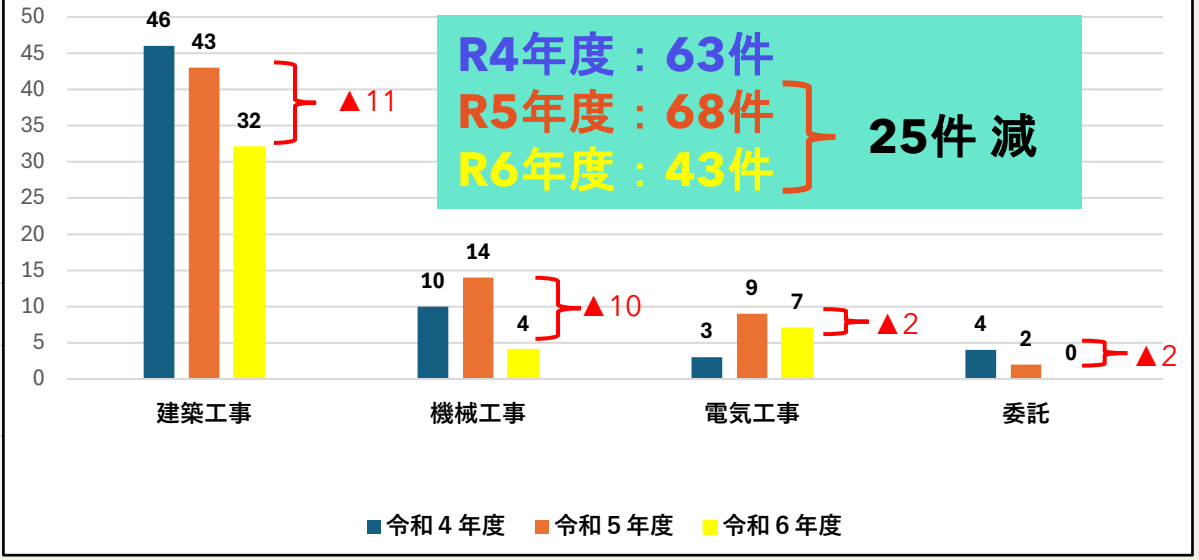




◆令和４・５・６年度公社発注工事　事故件数の比較

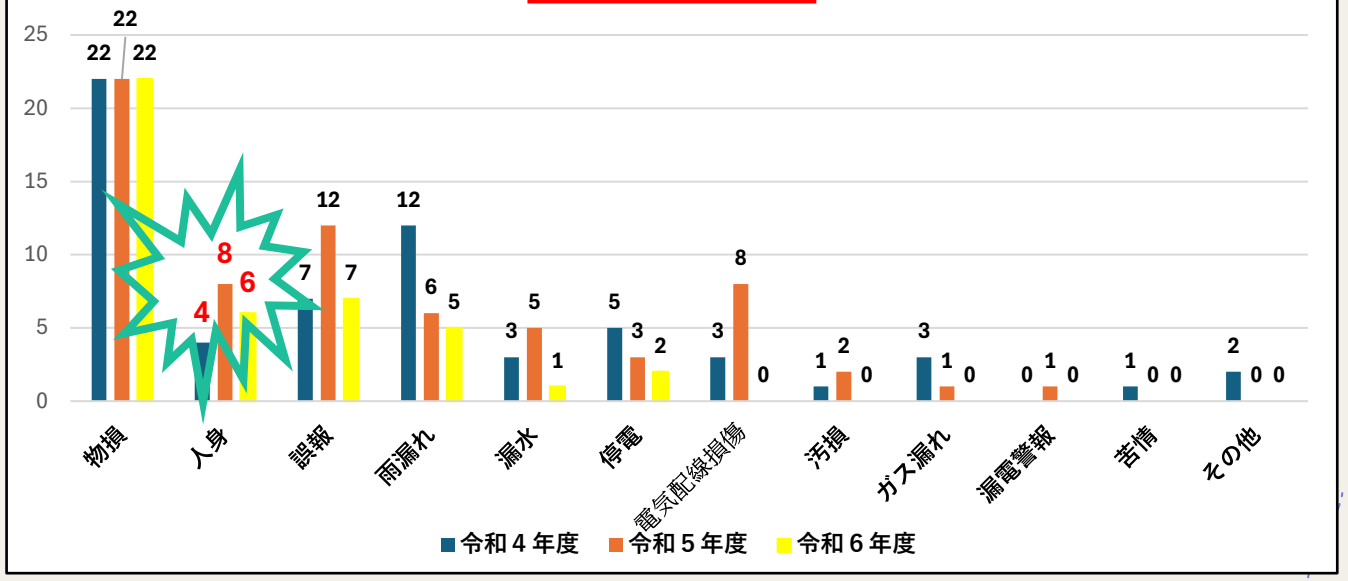
工事別比較

単位：件



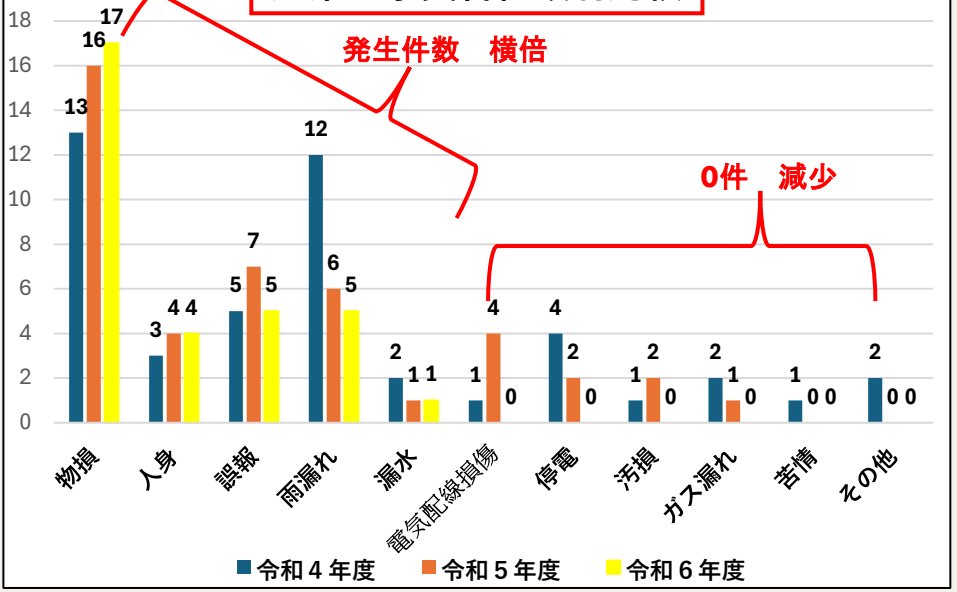
災害種類別比較

単位：件



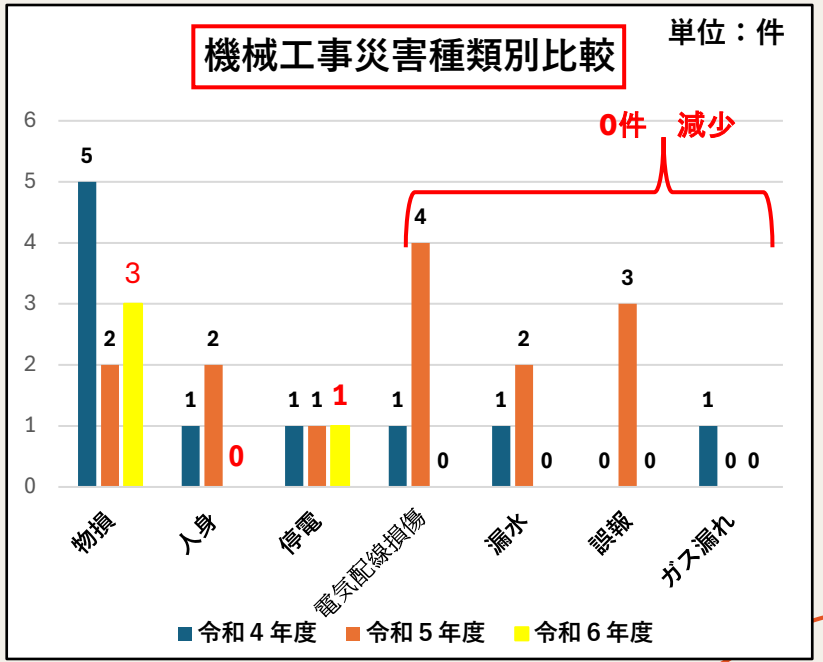
建築工事災害種類別比較

単位：件



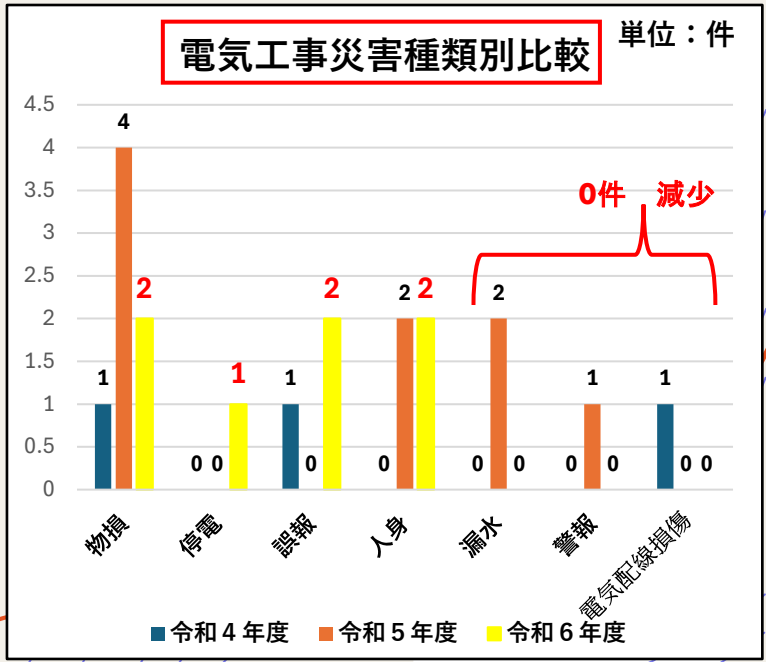
機械工事災害種類別比較

単位：件



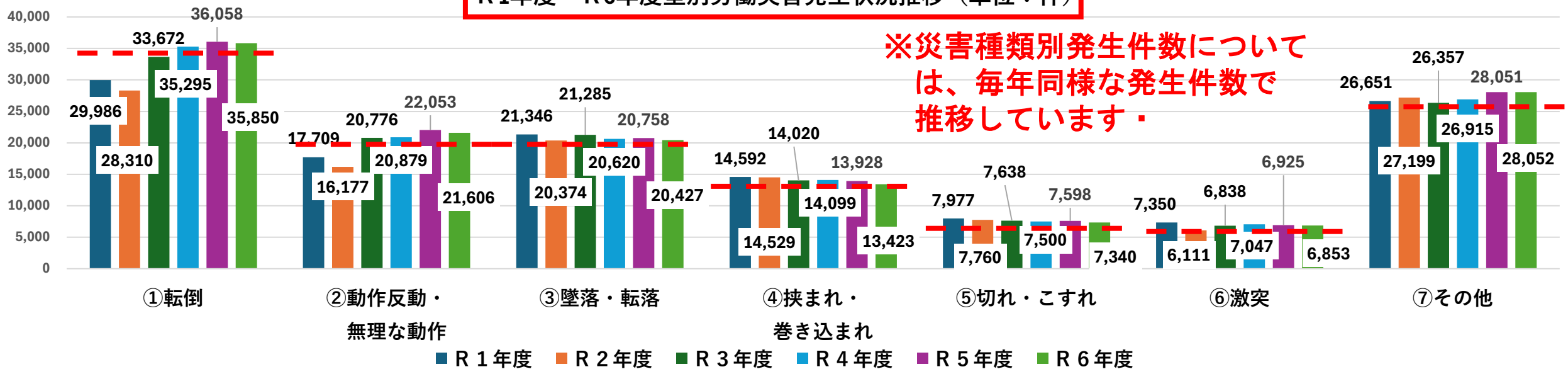
電気工事災害種類別比較

単位：件



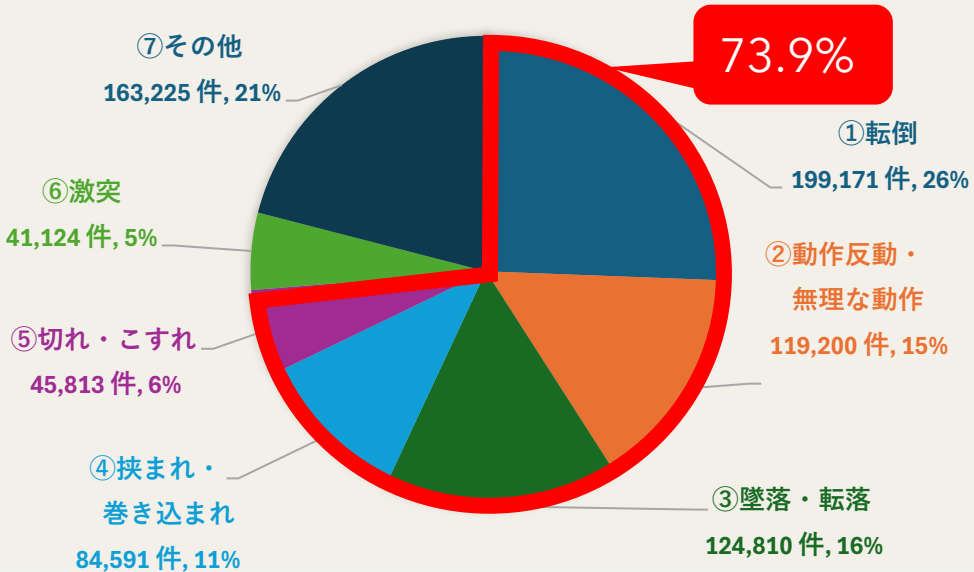
◆R1年度～R6年度　全国労働災害種類別発生状況推移（単位：件）

R1年度～R6年度型別労働災害発生状況推移（単位：件）



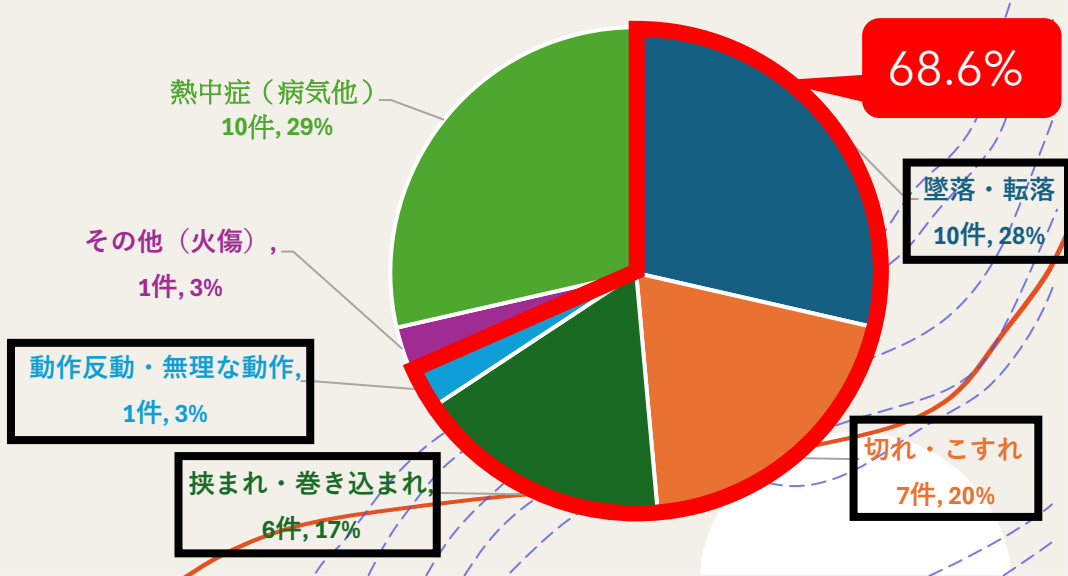
※災害種類別発生件数については、毎年同様な発生件数で推移しています・

R1年度～R6年度全国労働災害種類別比率



※主要な災害種類別比率について、全国比率、及び公社比率では、同様な比率で災害が発生しています。

H25年度～R6年度　公社発注工事災害種類別比率

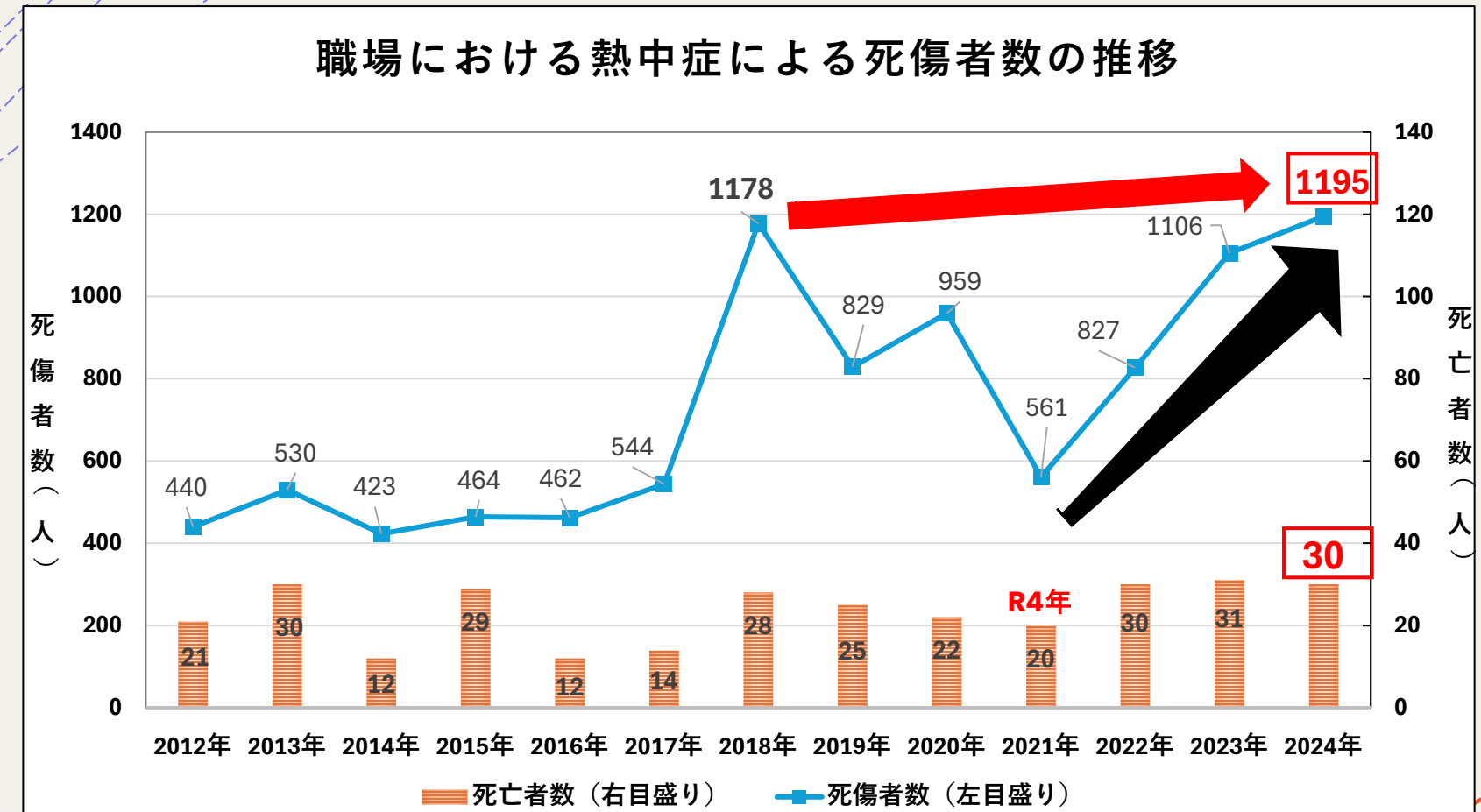


◆ R6年度の熱中症災害

公社工事で発生した人身災害のうち熱中症災害は、R5年度の2件に対し、R6年度は１件発生しています。
以下に、全国の職場における熱中症災害の発生状況を示す。R6年度は全国で1，195件の熱中症が発生しておりそのうち30名が死亡しています。

令和6年度（2024年度のデーター：（R7年１月７日時点速報値）
発生件数：1195件
死亡者数：30名

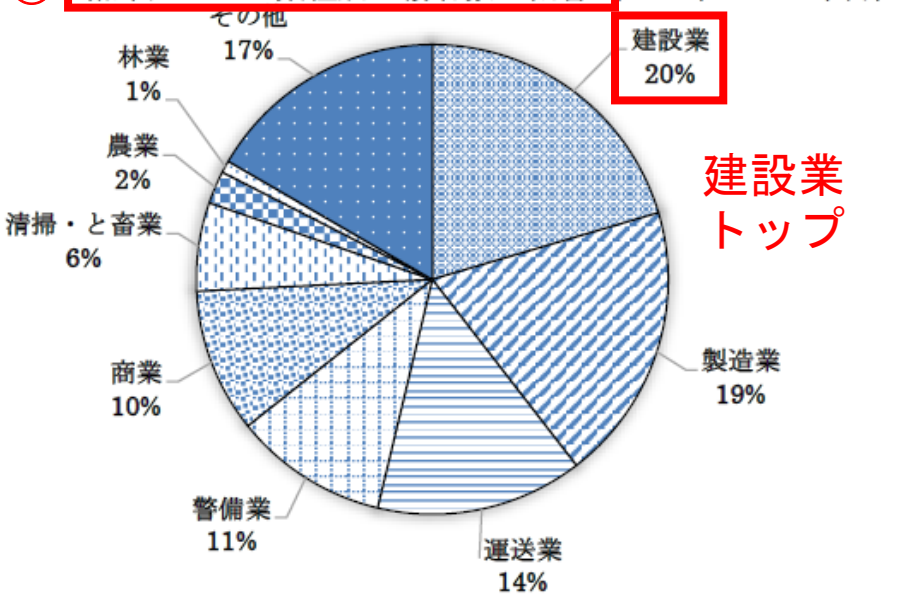
発生件数
Ｒ5年度　＜　Ｒ６年度（増）
死亡者数
Ｒ５年度　≒　Ｒ６年度（横這）



昨年は、全国で過去最高の死傷者数が発生、
死亡者数は横這です。
今年も例年に比して猛暑が想定されています。
・こまめな水分塩分補給
・こまめな休憩
・作業時間の工夫
熱中症対策万全に
今年の猛暑を
乗り切りましょう!!
ヨシ

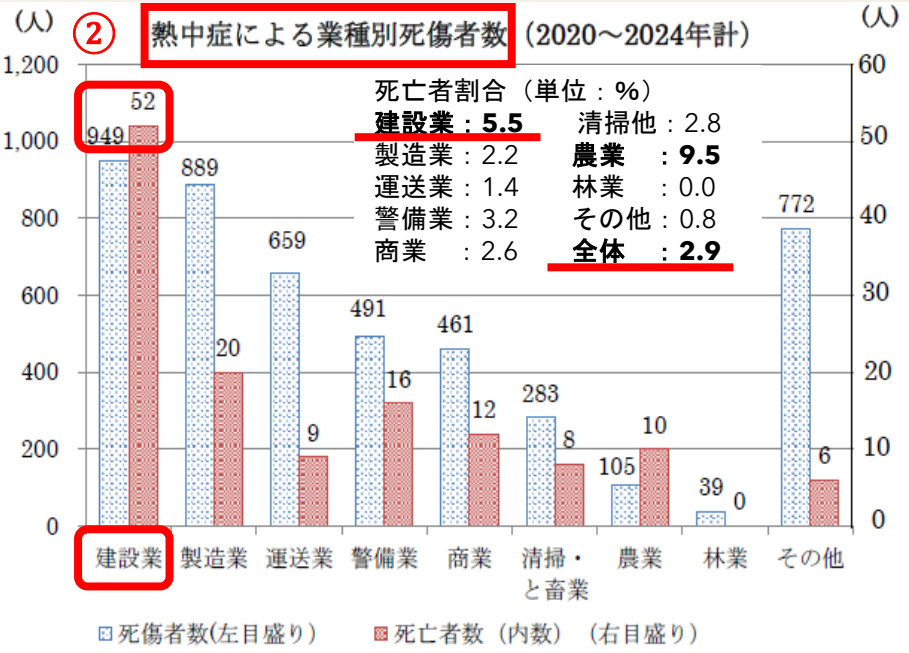
◆過去５年間累計　全国熱中症死傷者数のグラフ（2020～2024年）

① 熱中症による業種別死傷者数の割合（2020年～2024年計）



建設業トップ

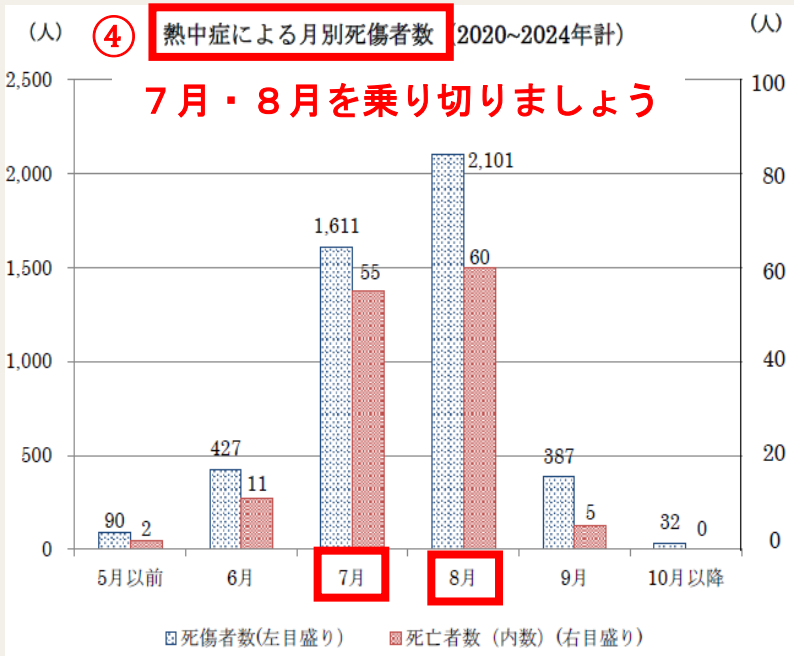
② 熱中症による業種別死傷者数（2020～2024年計）



③ 熱中症による月別死傷者数（2022年～2024年）

④ 熱中症による月別死傷者数（2020~2024年計）

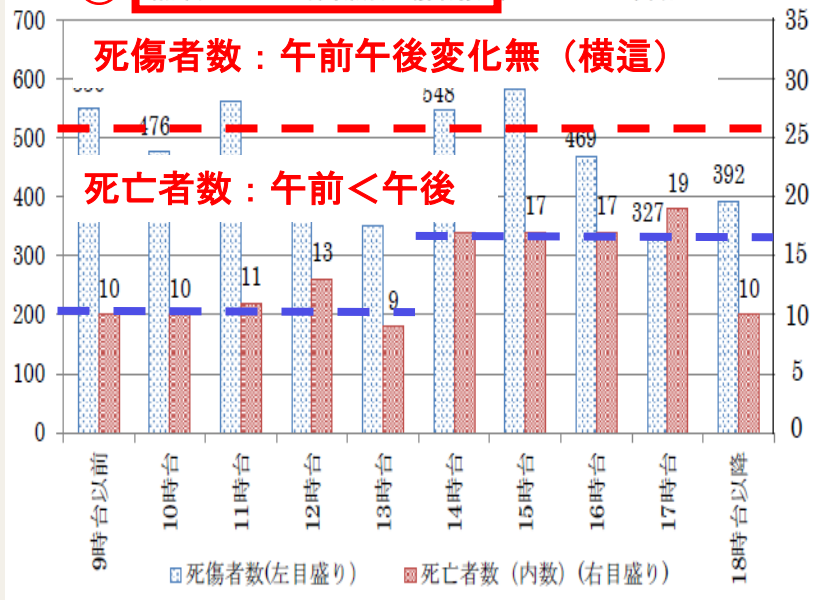
7月・8月を乗り切りましょう



⑤ 熱中症による時間帯別死傷者数（2020~2024年計）

死傷者数：午前午後変化無（横這）

死亡者数：午前＜午後



⑥ 熱中症による年齢別死傷者数の状況（2020～2024年）

	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上	計
2020年	24	54	51	56	82	87	134	123	105	93	150	959
202年												1
202年												7
2023年	20 (0)	80 (2)	71 (2)	48 (0)	88 (1)	90 (6)	122 (1)	136 (4)	133 (4)	120 (4)	198 (7)	1,106 (31)
2024年	17 (0)	65 (1)	88 (0)	67 (0)	85 (1)	103 (4)	106 (4)	156 (4)	168 (8)	129 (3)	211 (5)	1,195 (30)
計	83 (1)	284 (5)	307 (3)	274 (4)	360 (7)	405 (18)	534 (15)	573 (18)	570 (22)	487 (14)	771 (26)	4,648 (133)

40歳以上の、
死傷者数大幅増
死亡者数が二けたです。
注意が必要（目配り・気配り・声掛け）

◆Ｒ６年度の人身災害（６件発生（内１件熱中症））

①. 作業終了後、ハンドリフトを２ｔトラックに乗せようと持ち上げた際、ハンドリフトの爪とタイヤの間に指を挟み裂傷した。

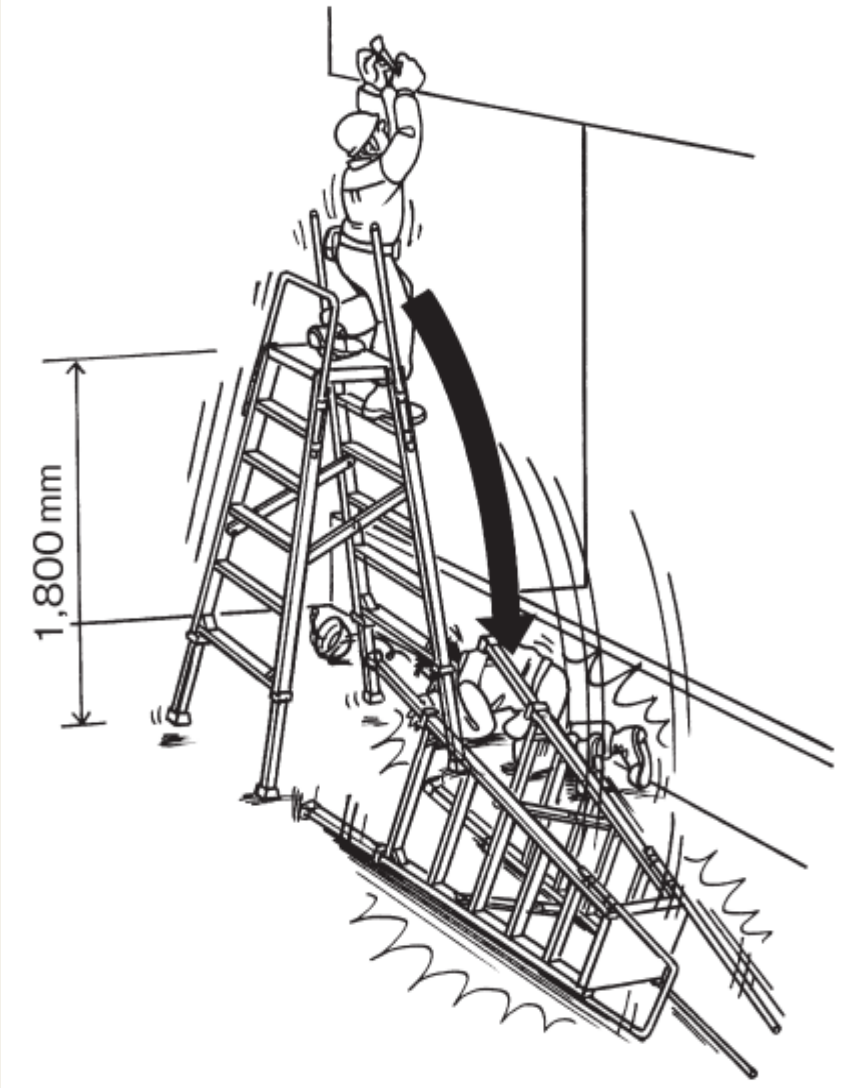
②. 放送設備の切替操作を行うため、機械室から職員室へ移動する際、機械室通路側の廊下の窓から廊下側へ飛び降り、着地と同時に足を滑らせ、右手を床面についた衝撃により、右手首を骨折した。

③. 天井内の電線を撤去した際に無理な体制で作業を行い、バランスを崩し脚立ごと転落し肋骨２本骨折した。

④. ケーブルの絶縁被覆をカッターナイフにて剥ぎ取りする際に誤っ手首を切創した。

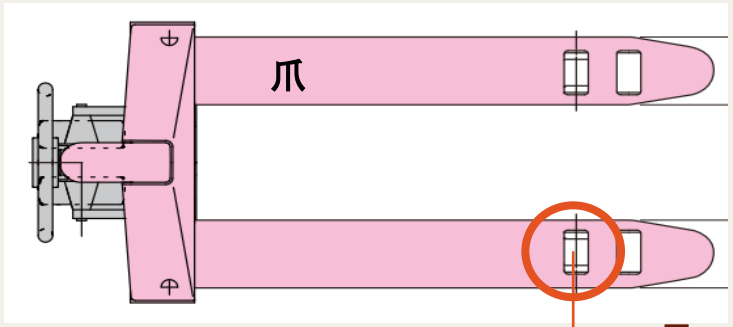
⑤. 立ち馬の上部から降りる際、前向きにて降りてしまい、ステップ上にて足を滑らせ転倒し、肋骨を骨折した。

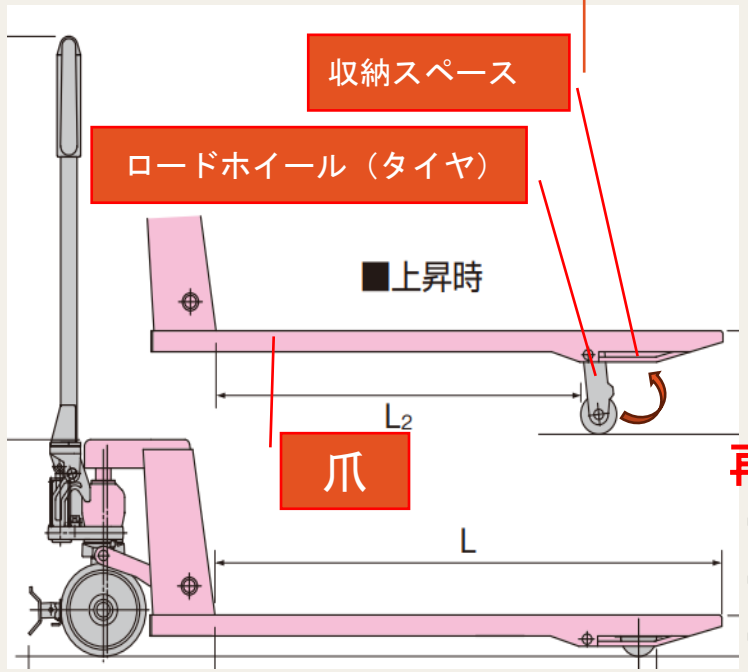
⑥. 熱中症　　１件発生



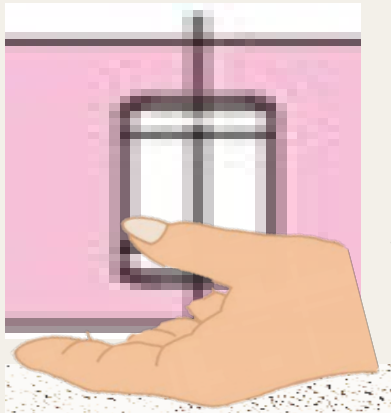
①.事故原因

作業終了後、ハンドリフトを２ｔトラックに乗せようと持ち上げた際、ハンドリフトの爪とタイヤの間に指を挟み裂傷した。





原因
ロードホイールと収納スペースとの間に指を挟み裂傷した。



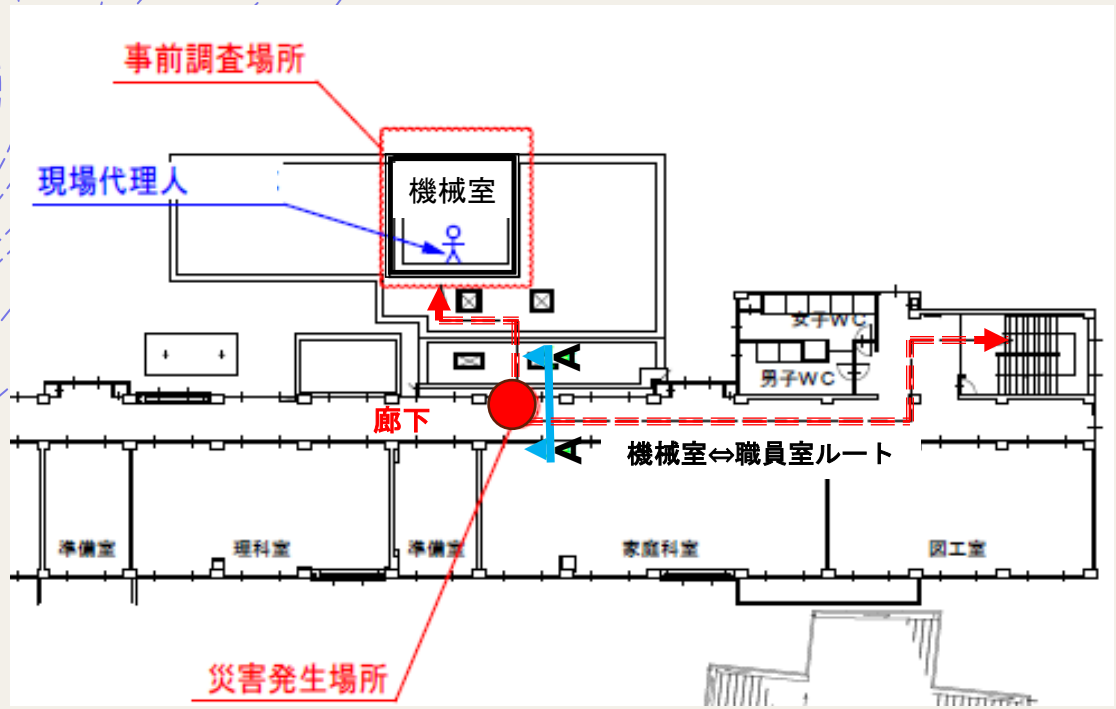
怪我症状
左母指末節骨開放骨折

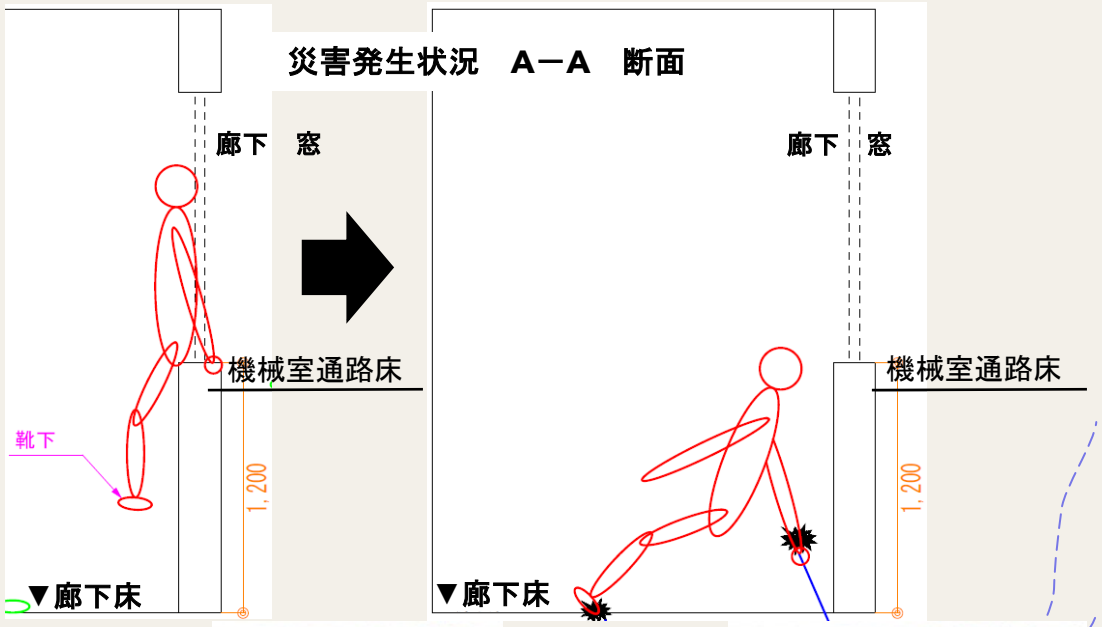
再発防止対策

- 持ち手位置を声の掛け合いで確認する
- 持ち手禁止範囲を事前にマーキング
- 揚重設備採用：ユニック他

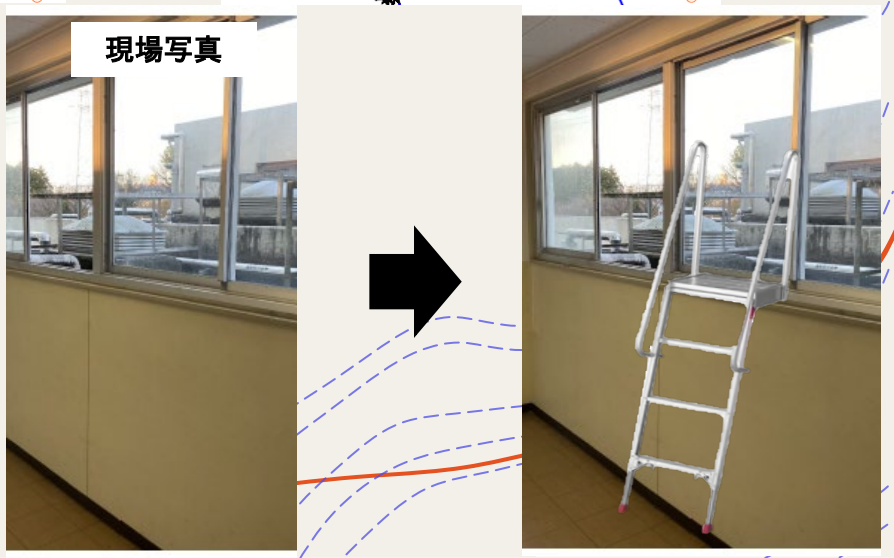
②.事故原因

放送設備の切替操作を行うため、機械室から職員室へ移動する際、機械室通路側の廊下の窓から廊下側へ飛び降り、着地と同時に足を滑らせ、右手を床面についた衝撃により、右手首を骨折した。





怪我症状
右手首骨折
全治：３か月

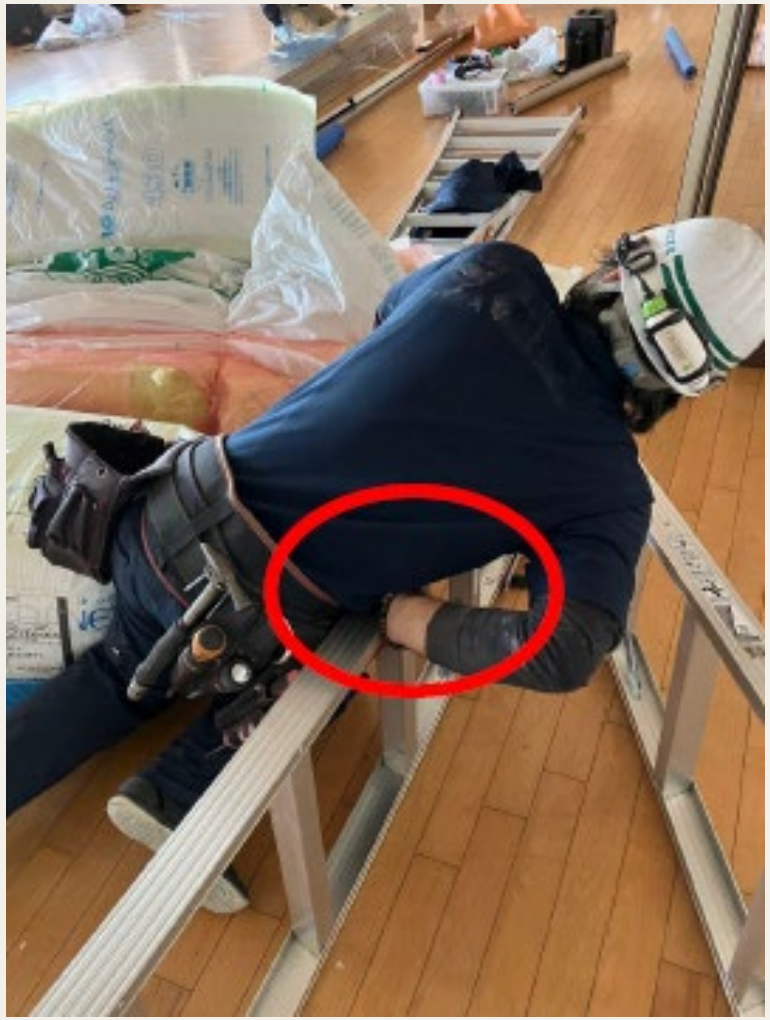


原因
・この高さなら大丈夫との判断から昇降設備を使用しなかった。

再発防止対策
・安全教訓「落ちるな・ 落とすな・ 轢かれるな・ **近道するな**・挟まれな 感電するな・ 火の用心」
（遠回りのロスタイム 怪我によるロスタイム（全治：3か月））
・大丈夫だろうとの安易な判断は厳禁、昇降設備使用の徹底

③.事故原因

天井内の電線を撤去した際に無理な体制で作業を行い、バランスを崩し脚立ごと転落し肋骨２本骨折した。



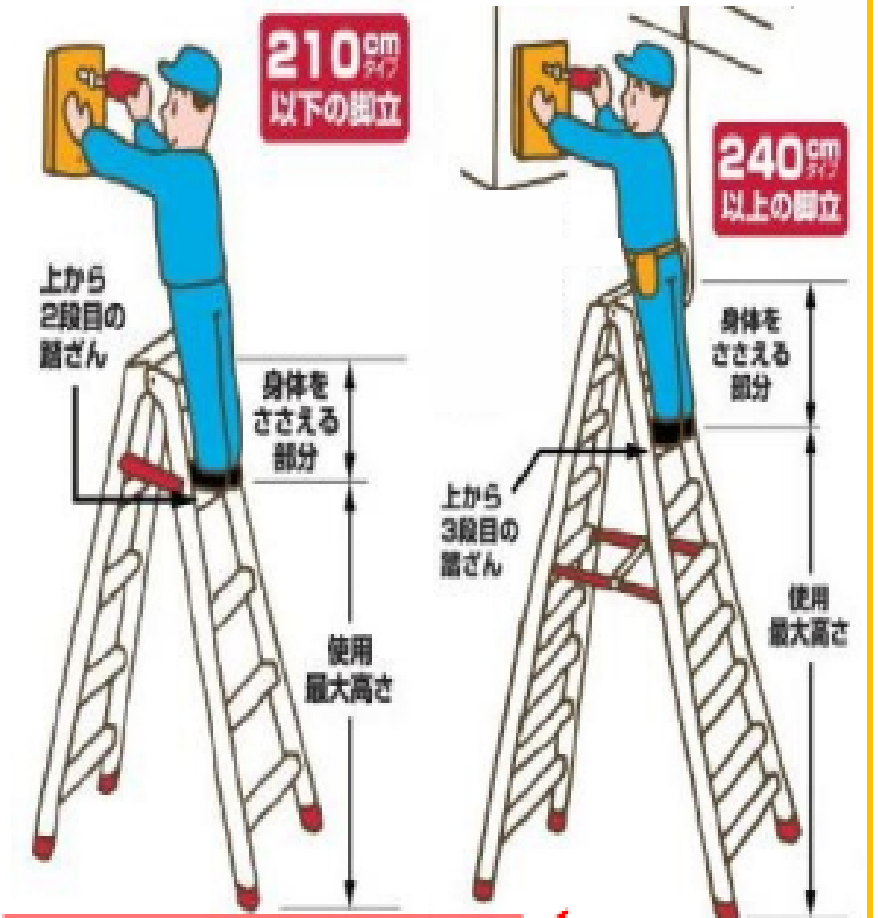
怪我症状
右肋骨骨折

原因
- 作業員が背伸び姿勢：作業に必要な仮設足場の高さ不足
- 脚立作業の介添え者がいない
- 経験１年目の作業員を１人で作業

再発防止対策
- 脚立作業は２人作業、両手でしっかり支える
- 脚立足場使用ルールの再徹底
- 立ち馬の使用も考慮

※脚立の適正使用

脚立の安全使用のポイント



※高さ２ｍ以上での作業時は、
ヘルメットだけでなく
安全帯も着用しましょう！

©軽金属製品協会
（無断転用禁止）

「労働安全衛生規則」で定められた主な事項

脚立（安衛則第528条）

1　丈夫な構造
2　材料は著しい損傷、腐食等がない
3　脚と水平面との角度を75度以下とし、折りたたみ式のものは、角度を確実に保つための金具等を備える
4　踏み面は作業を安全に行うため必要な面積を有する

まちがった使い方あるある

まちがった使い方をすると、転倒や転落の危険性があります。

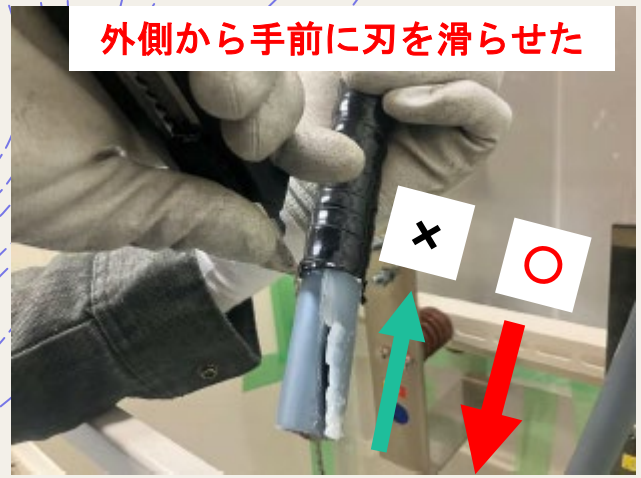
※立ち馬について

安定感　：　脚立　＜　立ち馬

安心感　：　脚立　＜　立ち馬

④.事故原因

ケーブルの絶縁被覆をカッターナイフにて剥ぎ取りする際に誤って手首を切創した。
（耐切創手袋を着用していたが、カッターナイフの刃が折れて耐切創手袋の手首部分を貫通して切創した）



再発防止対策

- **高圧ケーブル絶縁体剥ぎ取り作業は、カッターナイフは使用しない（厳守）**
- **高圧ケーブル絶縁体剥ぎ取り作業は、専用工具を使用する（厳守）**
- 作業用途に応じた、適切な耐切創手袋の使用の徹底

※作業用途に応じて適切な耐切創レベルの手袋を選びましょう。

保護手袋の機械的物性強度を評価する規格基準として、EU（欧州連合）にて制定されているEN 388があります。ショーワグローブではEN 388:2016に準拠し、2種類の試験・評価方法で耐切創レベルを導き、それぞれ表示しています。

専用工具

名称：6600V高圧ケーブル専用ストリッパー
用途：CV・CVTケーブルの被覆剥がし
製品名：ムキソケD高圧

名称：ハサミ型ケーブル専用ストリッパー
用途：CV・CVTケーブルの被覆剥がし
製品名：ムキチョッパ

⑤.事故原因

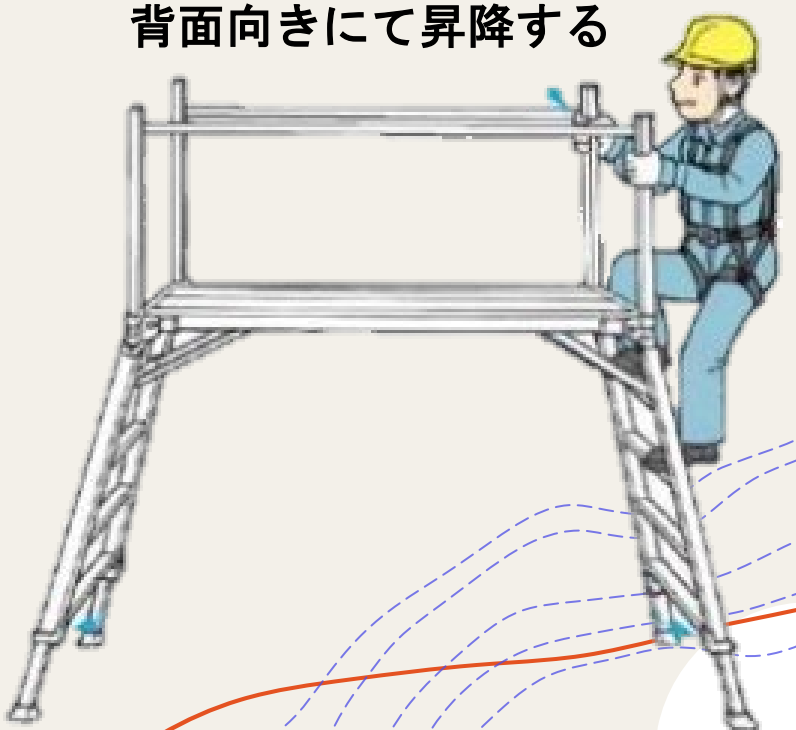
立ち馬の上部から降りる際、前向きにて降りてしまい、ステップ上にて足を滑らせ転倒し、肋骨を骨折した。

再発防止対策

・前向きに昇降しない
・身を乗り出すような無理な態勢で使用しない
・昇降の際は、一段ずつ確実に昇降する
・可搬式作業台（立ち馬）の使用基準を順守

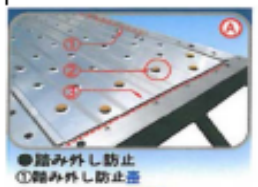
怪我症状
肋骨骨折

背面向きにて昇降する



可搬式作業台（立ち馬）の使用基準

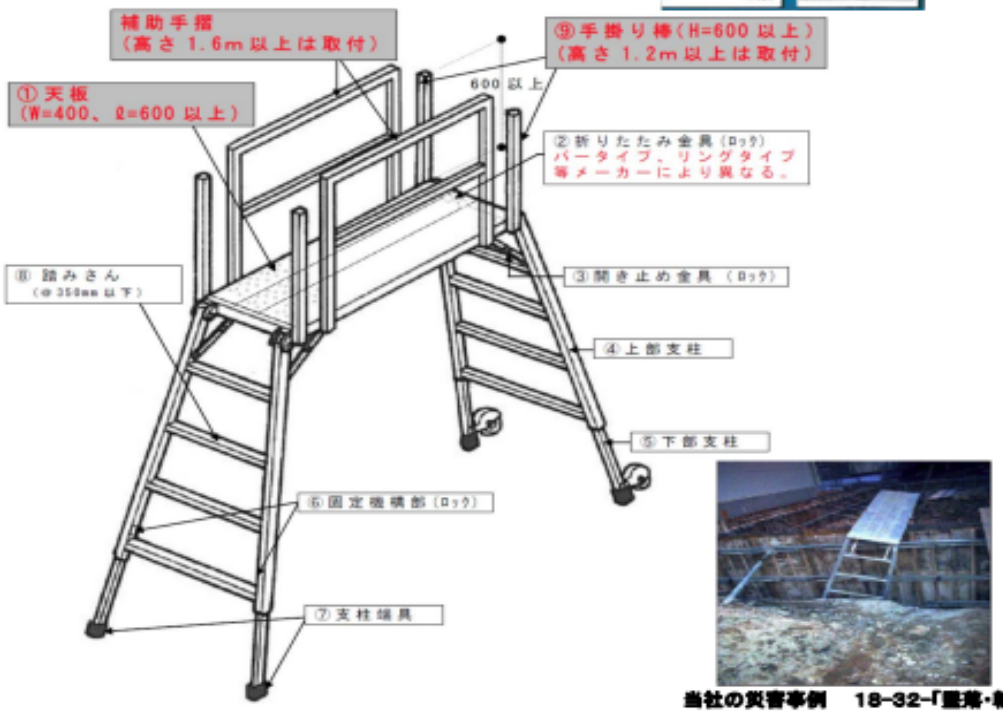
【（社）仮設工業会認定基準による】



Ⓐ踏み外し防止
①踏み外し防止**棒**
②踏み外し防止**ボタン**
③踏み外し防止**支柱跳**

◎作業床の境界を感知できる「感知バー」・「踏外し防止」等が付いている作業台を使用する。

⑧取扱い表示と点検表を掲示する

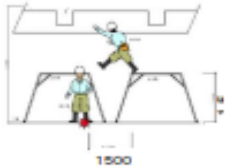


当社の災害事例　18-32-「墜落・転落」

【使用条件】 1）作業台は高さ2m未満で使用する。
2）最大積載荷重は150kg以下で使用する。
3）作業台の高さ1．2m以上は手摺り棒付を使用する。
4）作業台の高さ1．6m以上は補助手摺を取り付ける。 図-7

【使用上の注意事項】

1．天板は必ず水平な状態で使用する。 また、軟弱な地盤では使用しない。図-1　（災害事例写真参照）
開き止めロック等の状況を確認し使用する。（登る前に確認）
※移動後は必ずロック状況を確認する。（移動時にロック金具に手が掛かりロックが解除される場合がある）
※基礎（地中梁等）の渡りに使用する場合は、転倒防止等の措置を行う。
2．無理な姿勢での作業の禁止。（身の乗り出し・つま先立ち・天板の端の作業は禁止。）図-2
3．踏みさんの上の作業禁止、作業台や他の足場から渡り移りは禁止。 図-3
4．**「反力（反動）のかかる作業」を行う場合は、横連結で作業する。 図-4**
5．天板に同時に2人以上は乗らない。 図-5
6．昇降のときは、踏みさん側を向き、手に荷物を持たずに手掛り棒を使用する。 図-6
（背を向けたり、荷物を持っての昇降は禁止。 飛び降り禁止。）
7．**作業台は単独で使用する。 また、足場板受台としての使用は禁止。**
8．作業台を2台並べ天板をまたいでの作業は禁止。
9．開口部廻りで養生のない場所では使用しない。また、出入り口やドアの前では使用しない。図-8



当社の災害事例
17-43-「墜落・転落」（移り渡り）

図－1

天板斜めでの使用禁止

軟弱地盤での使用禁止

図－2

無理な姿勢で作業しない
身を乗出しての作業禁止

天板の端での作業禁止

図－3

踏みさん上の作業禁止

渡り移りは禁止

図－4
反動のかかる作業禁止

反動のかかる作業は、横連結（専用部材）で作業する

図－5
同時に2人乗り作業禁止
1人作業で使用する

図－6
背を向けて昇降しない

物を持って昇降しない

図－7
高さ1．6m以上は、補助手摺を両側に設置する

上向き作業は、補助手摺を両側に設置。または、安全帯を使用する。

図－8
出入り口やドアの前では使用禁止

使用前点検表

合否判定：合○、否×

点検項目	点検内容	合否
【基本事項】	認定合格品の確認（認定シール）	
【①天板】 巾　:400mm以上 長さ:600mm以上	1．油・樹脂など滑りやすいものの付着はないか。	
	2．曲がり・亀裂・ねじれ・へこみなどの破損はないか。	
	3．床の踏外し防止の境界線を感知する物はあるか。（ボタン・バー等の突起物）	
【②折りたたみ金具】	1．金具にゆるみや変形等の異常はないか、支柱(脚)の開閉時にロックされるか。	
【③開き止め金具】	1．金具にゆるみや変形等の異常はないか、開脚時にロックされているか。	
【④・⑤上下支柱】	1．曲がり・亀裂・ねじれ・へこみなどの破損はないか。	
【⑥固定機構部】	1．機構部にゆるみや変形の異常はないか。支柱(脚)の伸縮時にロックされるか。	
【⑦支柱端具】	1．端具（樹脂、ゴム等）に破損・脱落・変形・亀裂・磨耗がないか。	
【⑧踏みさん】	1．曲がり・亀裂・ねじれ・へこみなどの破損はないか。	
	2．油・樹脂など滑りやすいものの付着はないか。	
【⑨手掛り棒】	1．曲がり・亀裂・ねじれ・へこみなどの破損はないか。	
	2．固定金具にゆるみはなく確実にロックされるか。（左右合計４本）	

⑥.事故原因（熱中症）

・１件発生
被災者：外壁作業員（男性４６歳）
日　時：８月２２日（木）１０時頃
気　温　１０時：29.0℃
湿　度　　：88.0%
状　況：３階足場上で倒れた
症　状：ケイレン
対　応：休憩所にて身体の冷却
　　スポーツドリンク補給
用　心：10時19分：意識回復
　　10：25分：救急車搬送

公社発注工事熱中症発生推移		
年度	件数（件）	発生日
令和１年	1	9月10日
令和２年	1	8月5日
令和３年	1	ー
令和４年	1	8月4日
令和５年	2	8月21日 8月22日
令和６年	1	8月22日

令和１年以降毎年発生しています

熱中症対策について
現場において、万全な熱中症対策を行っていても、被災者本人の普段の生活面から無理があると現場で猛暑による熱中症発生リスクは、非常に高くなります。
建設業における死傷者数に対する死亡者数は、5.5%（5.5人／100人死亡）と非常に高い数字です。
今年も昨年より厳しく地域によっては、気温も４０℃超えの猛暑になると想定されています。
現場責任者の方には、普段から作業員とのコミュニケーションを通して、気配り、目配り、思いやり、の気持ちで接していただき、少しの変化にきずいてもらいたいと思います。

具体的には、熱中症の恐れがある労働者を早期発見し、社内で報告するための体制を整備するほか、重症化を防ぐための応急処置や医療機関への搬送などの手順を事前に作成する　　また、こうした点を関係する労働者に周知する　　義務化

対象となるのは「WBGT値28度以上又は気温31度以上の環境下で連続1時間以上又は1日4時間を超えての実施」が見込まれる作業です。

- 公布：令和7年4月15日
- 施行：令和7年6月1日
- 罰則：6月以下の懲役または50万円以下の罰金

熱中症対策について

労働安全衛生法の改正に伴い、対象となる条件が、WBGT値が28℃以上、又は気温31℃以上とありました

・WBGT値測定器について（測定器の設置場所に応じて選定には注意してください）

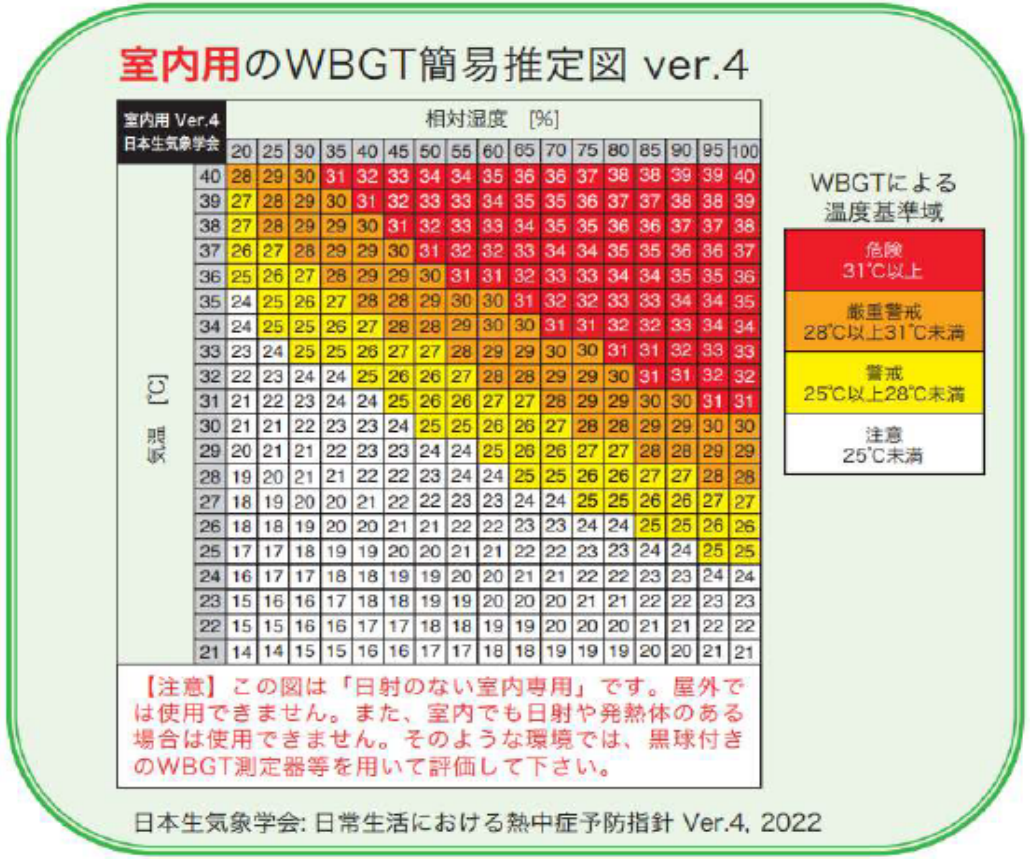
屋　外　用

屋　内　用

※　黒球付が屋外用になります

WBGT簡易推定図（日本生気象学会）についての注意点

- 日本生気象学会の簡易推定図は，2021年に改定され，**「日射のない室内専用」**と明記されました。
- それ以前のもの（Ver.1～Ver.3.1）とは，推定図の中身が変更されています。
- まだ古いものがガイドライン等に掲載されている可能性がありますが，そのような場合は新しいものに置き換えて使用してください。



室内用のWBGT簡易推定図 ver.4

室内用 Ver.4 日本生気象学会	相対湿度 [%]																
気温 [℃]	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100
40	28	29	30	31	32	33	34	34	35	36	36	37	38	38	39	39	40
39	27	28	29	30	31	32	33	33	34	35	35	36	37	37	38	38	39
38	27	28	29	29	30	31	32	33	33	34	35	35	36	36	37	37	38
37	26	27	28	29	29	30	31	32	32	33	34	34	35	35	36	36	37
36	25	26	27	28	29	29	30	31	31	32	33	33	34	34	35	35	36
35	24	25	26	27	28	28	29	30	30	31	32	32	33	33	34	34	35
34	24	25	25	26	27	28	28	29	30	30	31	31	32	32	33	34	34
33	23	24	25	25	26	27	27	28	29	29	30	30	31	31	32	33	33
32	22	23	24	24	25	26	26	27	28	28	29	29	30	31	31	32	32
31	21	22	23	24	24	25	26	26	27	27	28	29	29	30	30	31	31
30	21	21	22	23	23	24	25	25	26	26	27	28	28	29	29	30	30
29	20	21	21	22	23	23	24	24	25	26	26	27	27	28	28	29	29
28	19	20	21	21	22	22	23	24	24	25	25	26	26	27	27	28	28
27	18	19	20	20	21	22	22	23	23	24	24	25	25	26	26	27	27
26	18	18	19	20	20	21	21	22	22	23	23	24	24	25	25	26	26
25	17	17	18	19	19	20	20	21	21	22	22	23	23	24	24	25	25
24	16	17	17	18	18	19	19	20	20	21	21	22	22	23	23	24	24
23	15	16	16	17	18	18	19	19	20	20	20	21	21	22	22	23	23
22	15	15	16	16	17	17	18	18	19	19	20	20	20	21	21	22	22
21	14	15	15	16	16	17	17	18	18	19	19	19	20	20	21	21	

WBGTによる温度基準域

危険 31℃以上
厳重警戒 28℃以上31℃未満
警戒 25℃以上28℃未満
注意 25℃未満

【注意】この図は「日射のない室内専用」です。屋外では使用できません。また、室内でも日射や発熱体のある場合は使用できません。そのような環境では、黒球付きのWBGT測定器等を用いて評価して下さい。

日本生気象学会: 日常生活における熱中症予防指針 Ver.4, 2022

簡易換算表は屋内の一般環境用ですので，
屋外や日射・発熱源のある屋内では絶対に使用しないよう，お願いいたします。

日本生気象学会　熱中症予防研究委員会　https://seikishou.jp/committee/

熱中症対策について

・WBGTによる熱中症リスクの把握
・有効な休憩所の設置
・休憩サイクルの設定
・水分・塩分の摂取
} 受動的な対策

・**計画的な暑熱順化（1人ＫＹ→自分で自分の身を守る：能動的）**
・健康状態の把握・救急体制の整備

●暑熱順化とは
・熱への順化（暑熱順化）
　熱に慣れ、当該作業に適応する
　計画的に順化させること
・熱に慣れることにより、２～３日で自立神経が変化し、
　少しの熱でも下記の反応が起きやすくなる
　第一段階：皮膚血管拡張反応
　第二段階：発汗反応
・４～５日で内分泌系（ホルモン系）が変化
　塩分の損失を抑える効果
　汗がさらさらになり、蒸発・気化しやすくなる効果

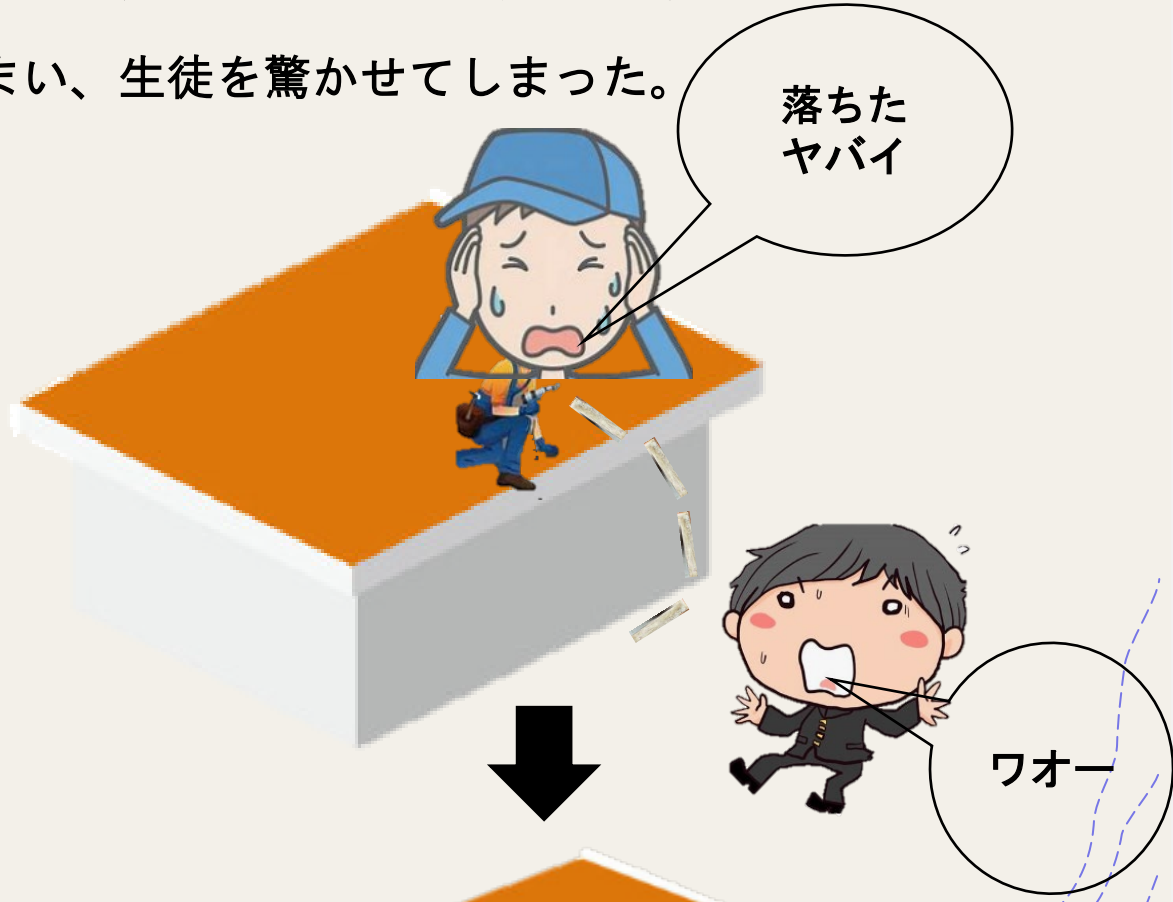
●具体的な暑熱順化
・**汗をうまくかいて体内の熱を放出する働き**を、暑くなる前、作業する前に**目覚めさせることが必要**
　ジムで一汗かく・ウォーキングやジョギング、自転車などでしっかり汗をかく
　半身浴・**サウナで汗をかく**
　冷房は控えめにする
　順化前に作業する場合は、無理をせず（させず）に一週間程度に徐々に暑い場所で作業する

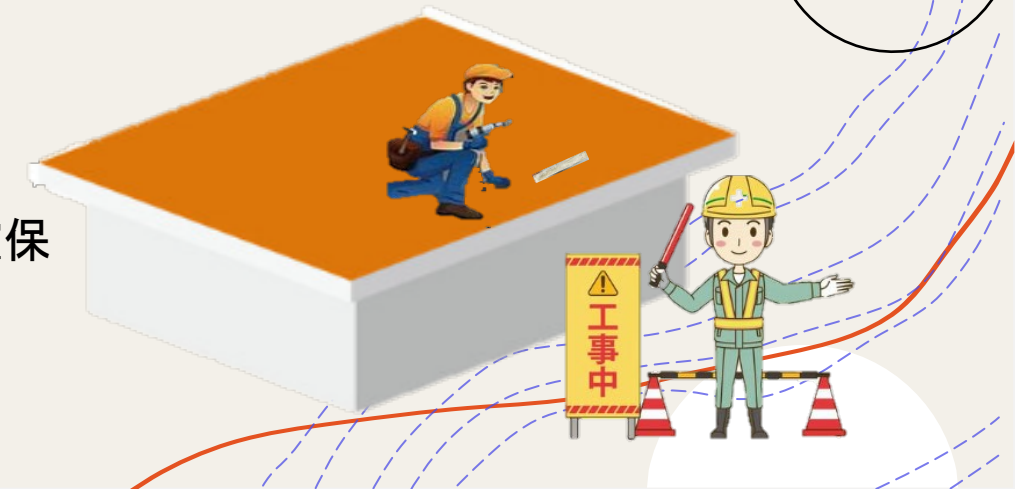
①.ヒヤリハット事例（突発的な事象にヒヤリとしたり、ハットしたりする事象）

１階屋根の笠木改修中に、Ｌアングルを地上に落下させてしまい、生徒を驚かせてしまった。

笠木がずれていたので正しい位置に直そうとしたところ笠木の下からLアルミ金物が落下したと思われる。

この笠木の裏からLアルミ金物が落ちたと思われます。



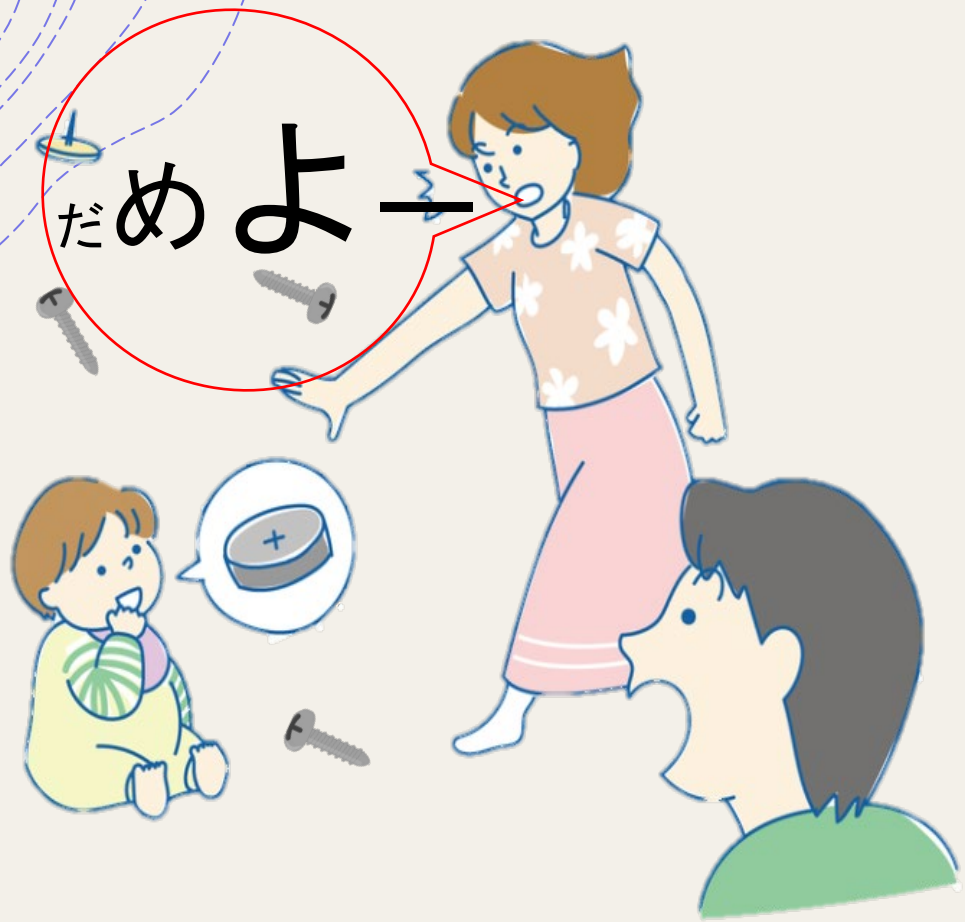


再発防止対策

・改修箇所の納まり（詳細）事前に確認
・屋根、屋上作業時は、地上周辺の安全確保
・安全監視員の配置

②.ヒヤリハット事例（突発的な事象にヒヤリとしたり、ハットしたりする事象）

療育センターの通園児童が、天井ボード用のビスを口に咥えていたのを保護者が発見した。



誤飲症状
物が詰まって気道がふさがる（窒息する）と、多くの場合、3分から4分で顔が青紫色になり、5分から6分で呼吸が止まって意識を失います。そして、心臓が止まり、10分で脳に障害が起こります。その後15分を過ぎると脳死状態になります

再発防止対策

・現場持込資材数量の確認（持込数量・使用数量・残数量）順守
・作業終了後の材料（破片、ビス等）残存物、工具類数量確認順守
・５Ｓ活動（整理・整頓・清掃・清潔・躾）の順守

◆一歩間違えれば、取り返しのつかない重大な人身災害になる!!

満足度アンケート（工事完了後、施設管理者より工事全般について意見をいただいた内容になります）

未就学児童を作業車に乗せて、仕事が終わるまで待たせることが度々あった。時には、朝から夜まで。
その際、エンジンをかけっぱなしで駐車することも多く適切な駐車ではないと判断、注意をしたが、
その後も続いた。

事実関係

作業員（ご夫婦）が、５歳と７歳の子供の預け先が無かったために、通勤車両の中に子どもを乗せ、
終日作業をしていた。通算で７日間、校内で暑さ対策のためエンジンをかけたまま、駐車をしていたとのこと。

子供を車内に放置することは、
保護責任者遺棄罪
重過失致死罪
に該当し、保護者は罰せられます。

◆Ｒ６年度の公衆災害などの紹介－１／２

①校舎屋上防水施工中の降雨により下階の教室等に雨漏りし、備品類を汚損した。

②６ｍのローリングタワーからワイヤーかしめ工具が落下した。

③トイレ床軽量コンクリート撤去作業中に粉塵が廊下天井内まで流出し天井設置の火災報知器が粉塵を吸い込み誤発報した。

④仮設足場内にて手摺補修鋼材を運搬作業中に、校舎の窓ガラスにぶつけてひび割れ破損した。

⑤複合受信機交換後の移報信号作動試験の際、電話回線がつながった状態で試験を行い、所轄消防署に緊急通報が入り、消防車が出動する事態となった。

ヒューマンエラー12分類

項目	原因
不注意	確認不足・注意力散漫
錯覚	表示の見間違いや思い込み
単調作業による集中力・意識の低下	単調作業での集中力切れによる、異常の見逃しや誤操作
場面行動本能	緊急時に直感的に行動する
知識不足・未経験・不慣れ	必要なスキルの不足
慣れによる手抜き・危険軽視	慣れにより確認や手順を飛ばす
近道・省略行動	作業効率のため確認や手順を飛ばす
チーム内での連絡・コミュニケーション不足	作業の引き継ぎ不十分や情報共有不足
集団欠陥	誰かがやるだろうという集団心理
パニック	障害発生時の誤った行動
疲労	長時間労働、不規則勤務
高齢者の心身機能低下	加齢による機能低下

◆Ｒ６年度の公衆災害などの紹介－２／２

⑥２階開放廊下壁面の吹き付け作業中に、１階廊下を通行した生徒の制服に塗料が付着した。

⑦電灯盤内の確認作業時にブレーカーのテストボタンに誤って接触し、表示システム、確認放送システムの電源系統のブレーカーがトリップし停電となった。

⑧２階自転車駐車場にて、鉄骨の塗装を施工中に１階及び２階に駐車していたオートバイ・自転車に塗料が飛散した。

⑨敷地内の止水栓ボックスに止水栓回し工具を設置したまま現場を離れてしまい、地盤面から３０cm飛び出していた止水栓回し工具に施設関係車両が接触し破損した。

⑩武道場更衣室洗面所系統母管の水圧試験実施を関係者への周知不足から武道場更衣室洗面器から水があふれ出て床が水浸しとなった。

⑪作業終了後、車両に乗り込みバックで退場しようと右旋回した際に、右側に停車していた施設関係車両の右側バンパーに接触した

ヒューマンエラー12分類

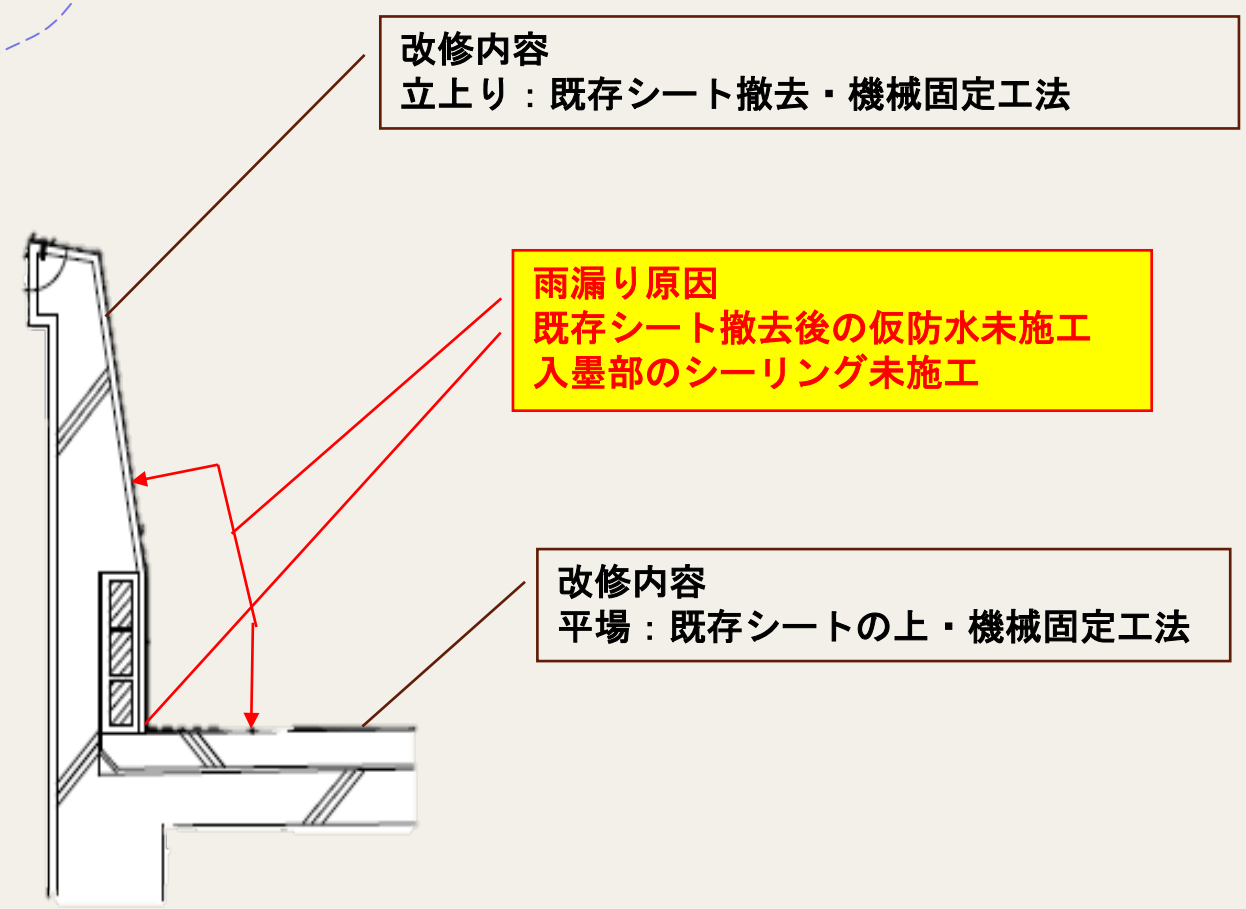
項目	対策
不注意	ダブルチェックや注意喚起
錯覚	視認性の改善
単調作業による集中力・意識の低下	定期的な休憩、作業ローテーションを挟む
場面行動本能	緊急対応マニュアル整備や訓練
知識不足・未経験・不慣れ	教育・研修制度の充実
慣れによる手抜き・危険軽視	定期的な業務棚卸と再教育
近道・省略行動	安全や品質を優先する
チーム内での連絡・コミュニケーション不足	情報共有のルール化
集団欠陥	チェック体制の整備
パニック	インシデント対応訓練
疲労	勤務時間の上限管理やインターバル制度
高齢者の心身機能低下	年齢や身体的特性に応じた配慮と配置

１．事故概要

①校舎屋上防水施工中の降雨により下階の教室等に雨漏りし備品類を汚損した。

２．事故原因（知識不足・未経験・不慣れ）

・パラペット立ち上がり入墨部の仮防水（シーリング）の未施工による漏水



３．対　　策

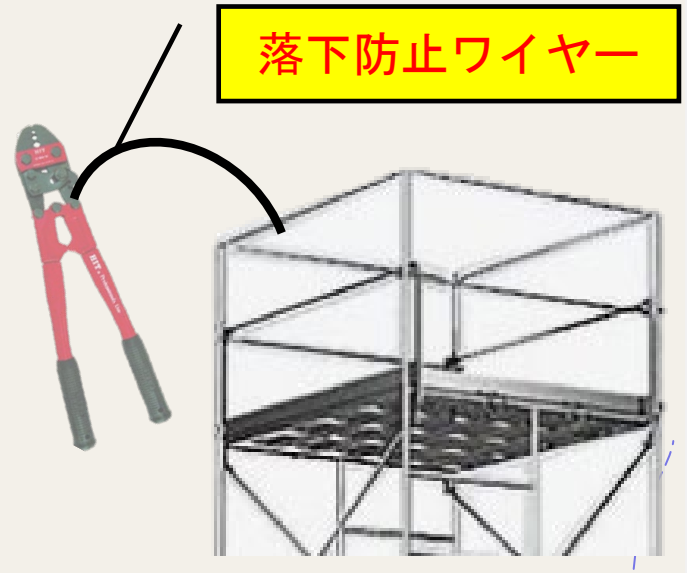
・既存シート防水撤去後の速やかな仮防水及び本防水の実施
・既存撤去から本防水完了まで短期間で実施可能な工程管理
・雨漏りが想定される範囲の備品類（電気機器類）のビニール養生、物品移動

１．事故概要

②６ｍのローリングタワーからワイヤーかしめ工具が落下した。

２．事故原因（危険軽視・慣れ）

・かしめ工具が、手元を滑らせ落下した。



３．対　　策

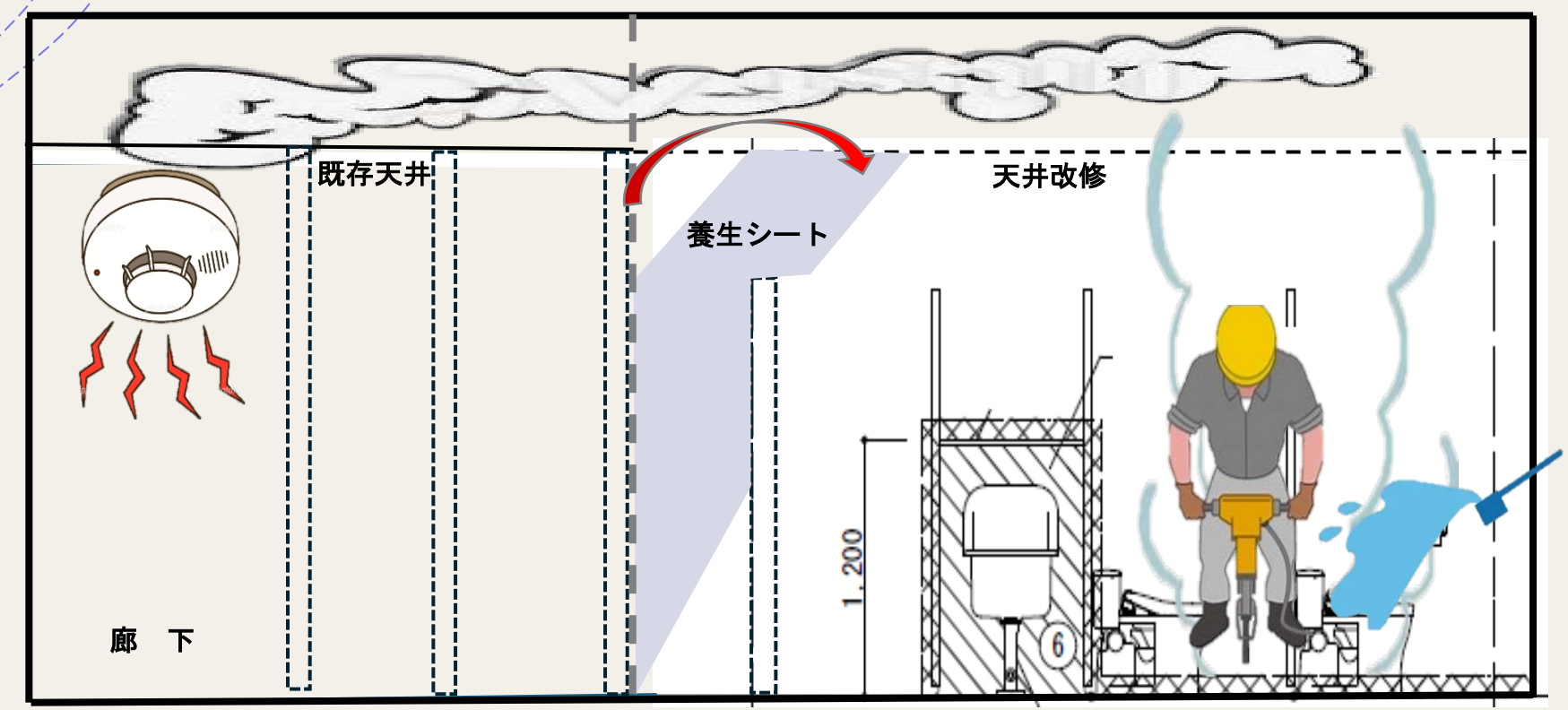
・工具に落下防止ワイヤー設置
・立入禁止区域設置
・安全監視人の配置
・ノンスリップ手袋使用

１．事故概要

③トイレ床軽量コンクリート撤去作業中に粉塵が廊下天井内まで流出し天井設置の火災報知器が粉塵を吸い込み誤発報した。

２．事故原因（不注意）

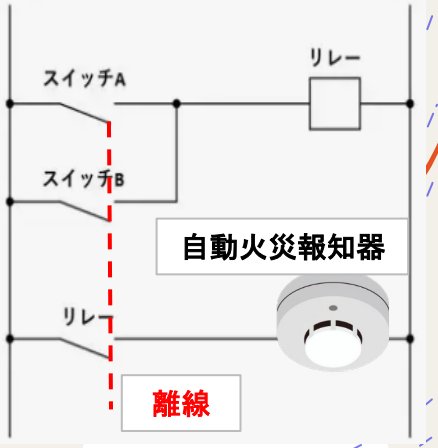
・粉塵の飛散防止対策としてシート養生を行っていたが、撤去ガラの搬出作業に伴う養生シートの開閉繰り返しにより、めくられた状況が発生し、粉塵が天井内へ流出した。



３．対　　策

・感知器の防護養生
・感知器の受信盤からの離線
・撤去材周辺の散水養生
・集塵機の利用
・養生シートの目張り状況確認（厳守）

自動火災報知機カバー

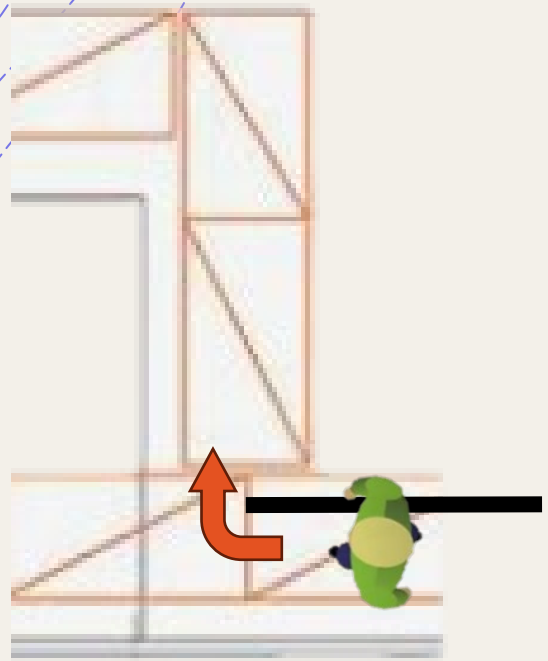


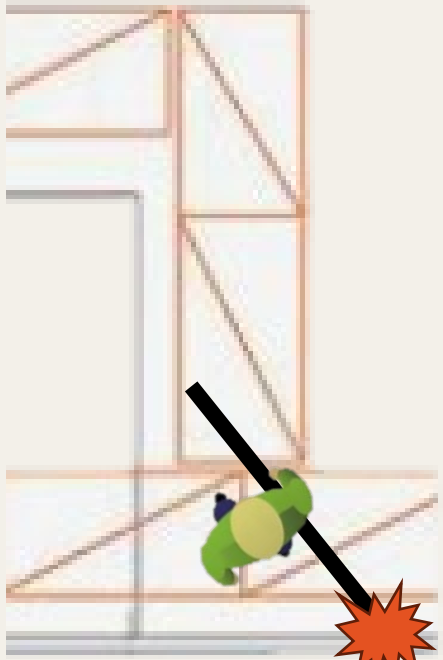
１．事故概要

④仮設足場内にて手摺補修鋼材を運搬作業中に、校舎の窓ガラスにぶつけてひび割れ破損した。

２．事故原因（不注意）

・作業員は大量の補修鋼材を抱えて狭隘な足場内を運搬中に切替しを行った際、補修鋼材が窓ガラスにぶつかった。





被災状況

３．対　　策

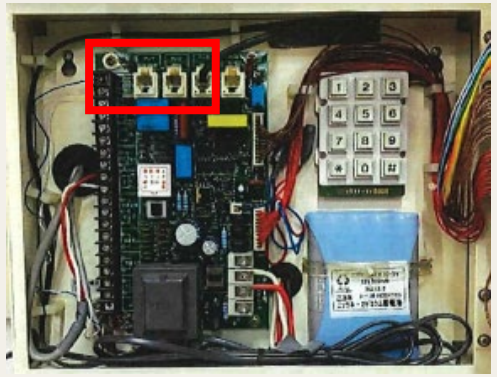
・２人作業徹底
・揚重設備を使用
・安全監視員の配置

１．事故概要

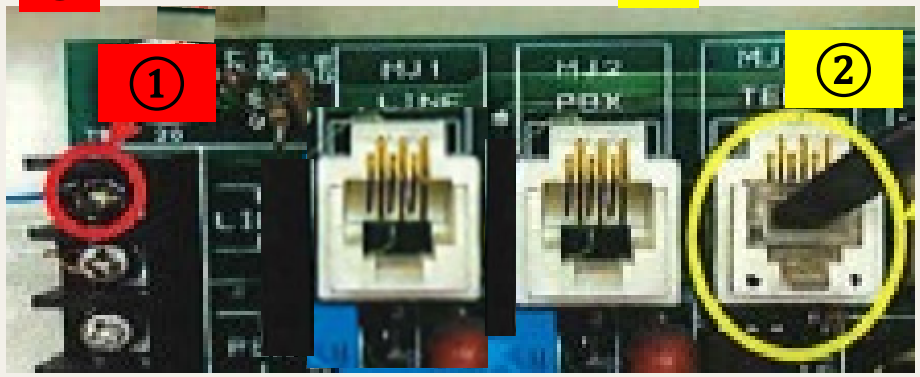
⑤複合受信機交換後の移報信号作動試験の際、電話回線がつながった状態で試験を行い、所轄消防署に緊急通報が入り、消防車が出動する事態となった。

２．事故原因（無知・未経験・不慣れ　、錯覚　）

・火報通報装置の外線用電話ケーブル（LINE端子）を離線しなければいけないところ、事前確認を怠り受話用のTELジャックの線を抜いてしまった。

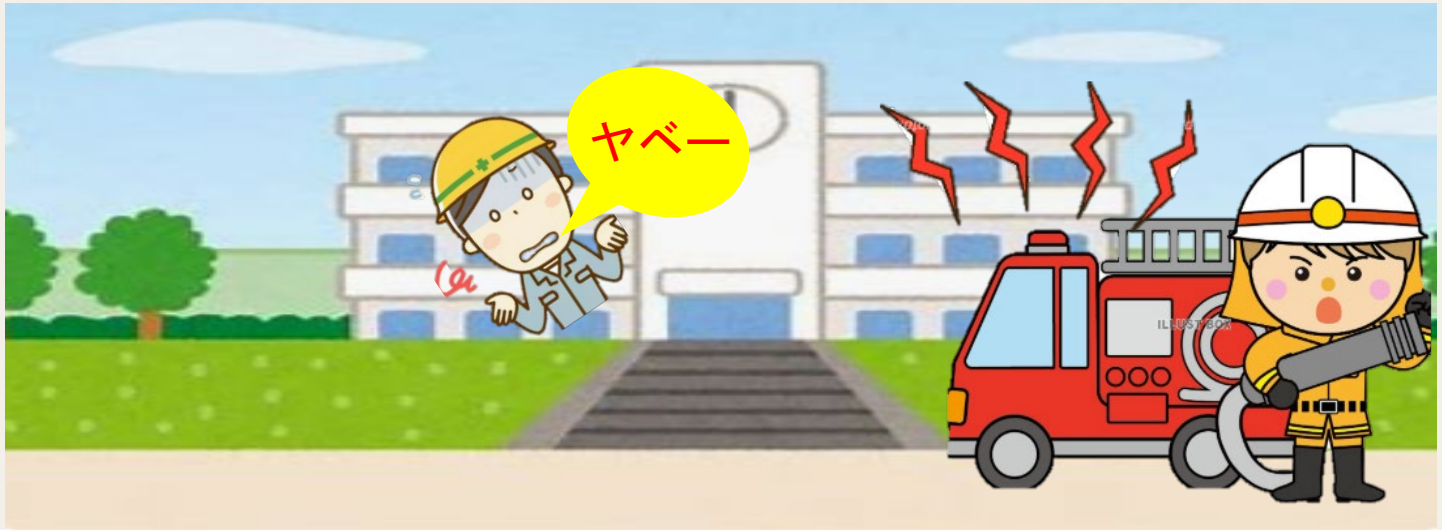


① 正：外す➡誤：外さなかった　② 正：外さない➡誤：外してしまった



① 本来外さなければならないLINE線外線用電話ケーブルが繋がったまま作動試験を実施

② 間違えて外してしまったTELジャック（受話用ケーブル）



３．対　　策

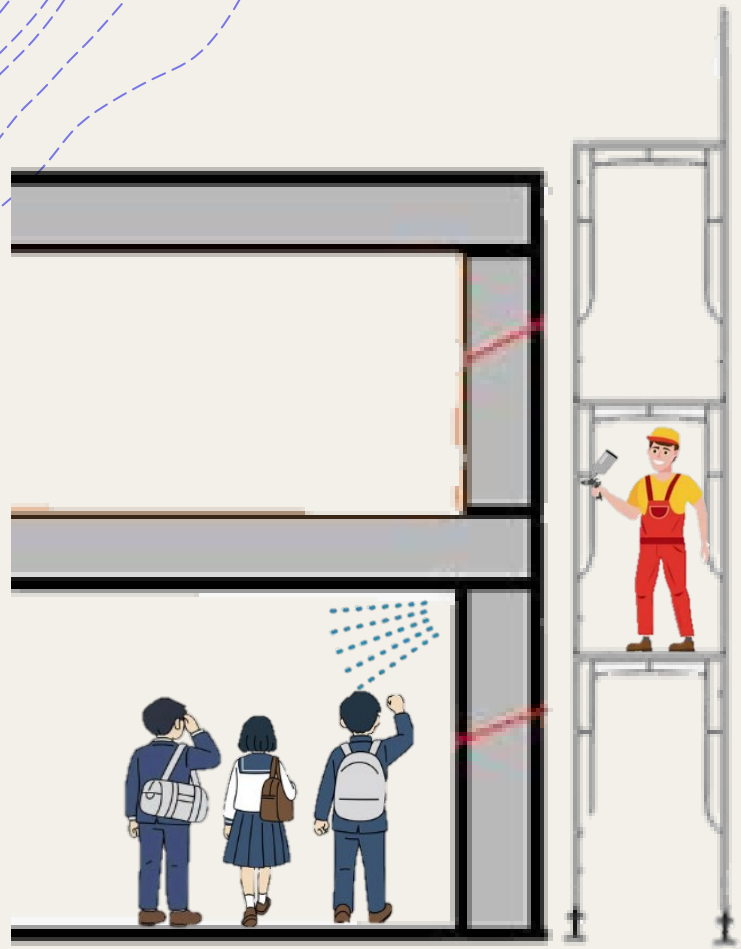
・作業手順書・チェックリストによる確認
（ケーブル離線に関する作業手順書）
（離線予定ケーブルへのマーキング）
（作業は２名以上で実施・確認（Wﾁｪｯｸ））
・作業に伴うリスクの洗い出しを行い、
リスク管理の強化を図る
・疑問を感じたら立止り、関係者に確認する

１．事故概要

⑥２階開放廊下壁面の吹き付け作業中に、１階廊下を通行した生徒の制服に塗料が付着した。

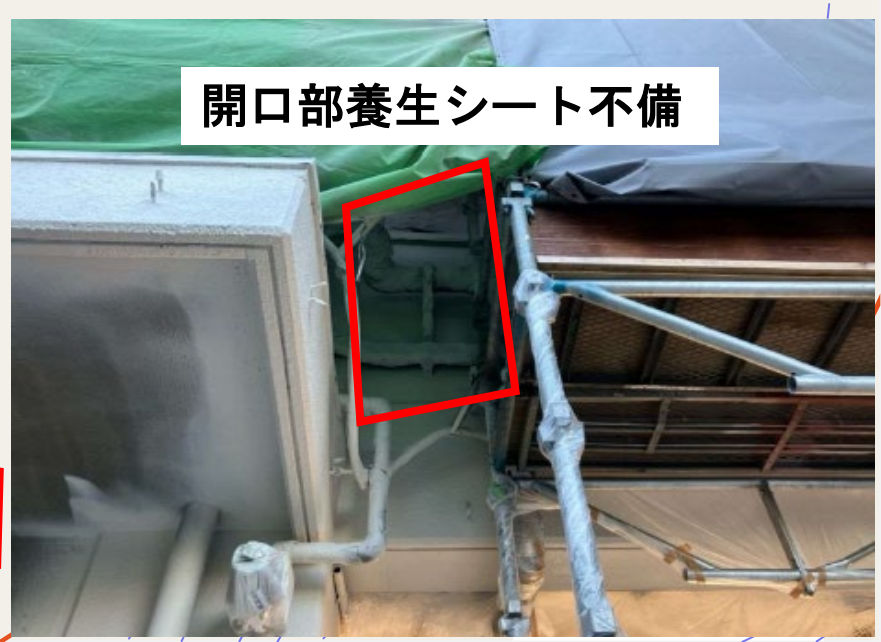
２．事故原因（近道・省略行動本能）

・塗装工法を請負会社からの要望でローラー（設計）から吹き付けに変更、
　また、吹き付けに伴う養生シートに不備があり隙間から塗料が飛散した。



３．対　　策

・ローラーで作業を行う。(厳守)
・歩行者が多い場合は、土日祝に作業を行う。
・安全監視員を配置する。
・吹き付け作業を行う場合は、隙間の無いシート養生を行う。(厳守)

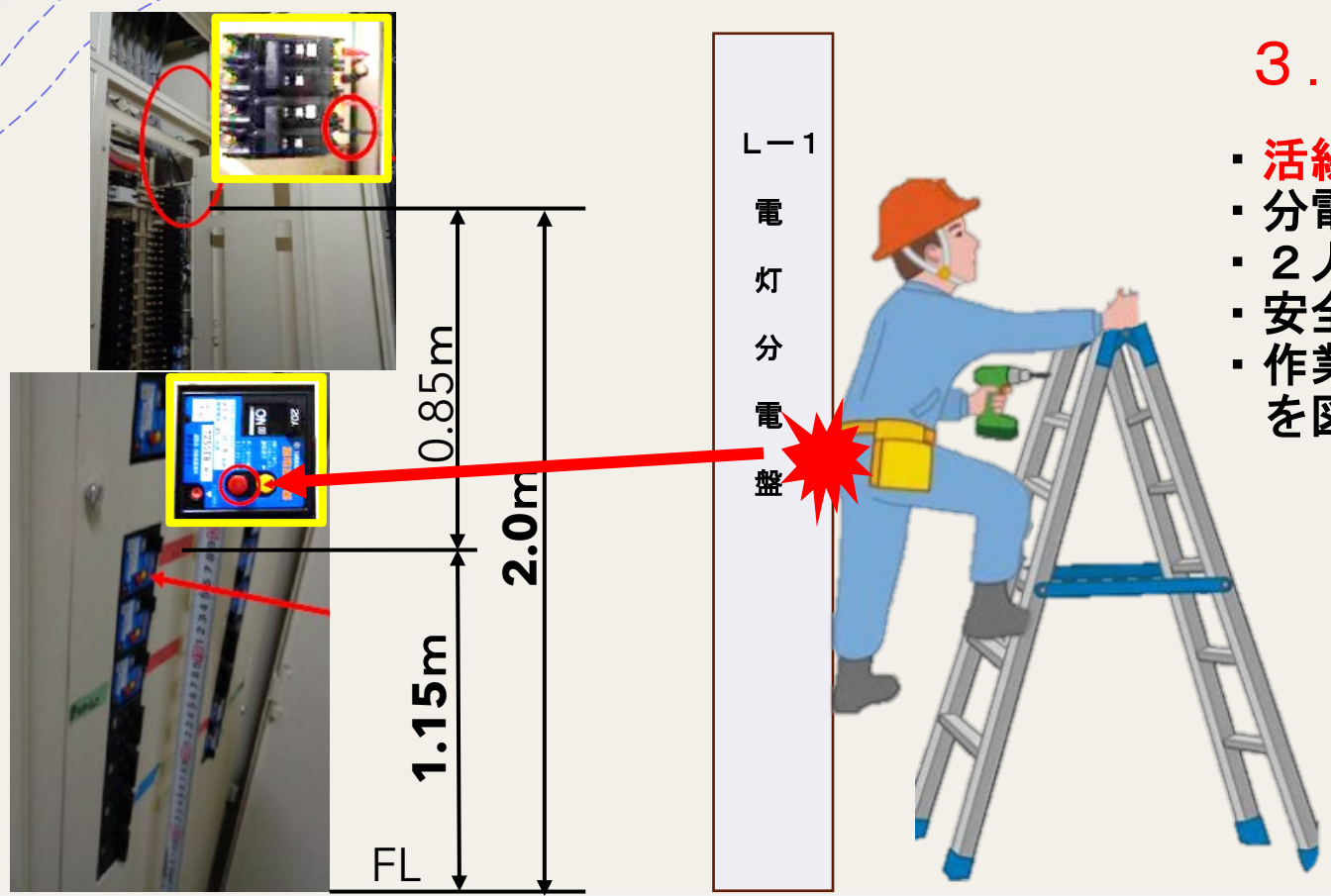


１．事故概要

⑦電灯盤内の空調電源接続作業中にブレーカーのテストボタンに誤って接触し、表示システム、確認放送システムの電源系統のブレーカーがトリップし停電となった。

２．事故原因（危険軽視・慣れ）

・電灯分電盤内の作業において、狭隘な場所であったことから、脚立でＦＬ＋2.0m付近のブレーカーへのケーブル接続作業時に、ＦＬ＋1.15m付近の27番回路のテストボタンに体の一部が触れてブレーカーがトリップし、停電となった。



３．対　　策

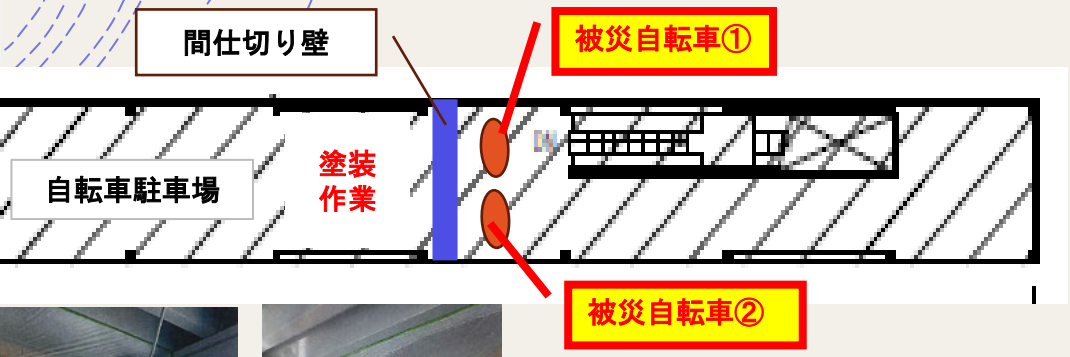
・**活線作業の原則禁止（厳守）**
・分電盤内の保護カバー設置。（誤操作防止）
・２人以上で作業を行う。
・安全監視員の配置。
・作業に伴うリスクの洗い出しを行い、リスク管理の強化を図る（執務時間外、業務時間外、営業時間外の実施）

１．事故概要

⑧２階自転車駐車場にて、鉄骨の塗装を施工中に１階及び２階に駐車していた自転車、オートバイに塗料が飛散した。

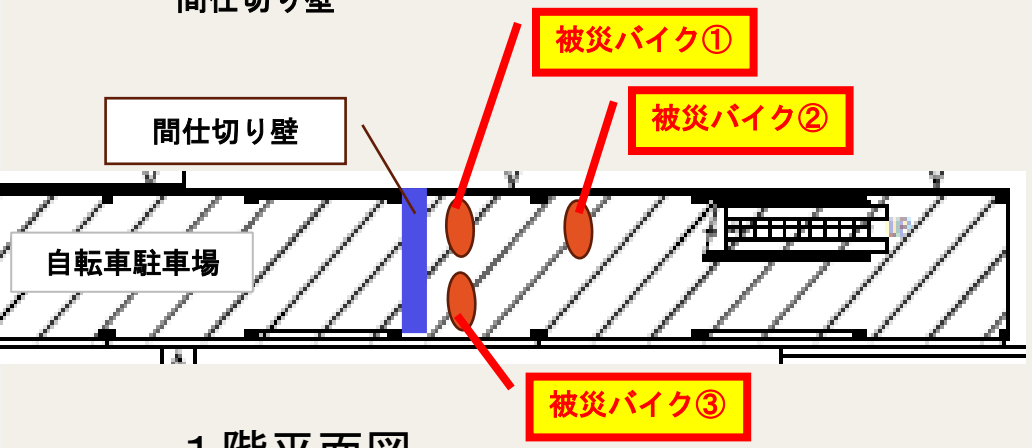
２．事故原因（近道・省略行動本能）

・塗装工法が吹き付け塗装、また強風により養生シートの隙間から飛散した。

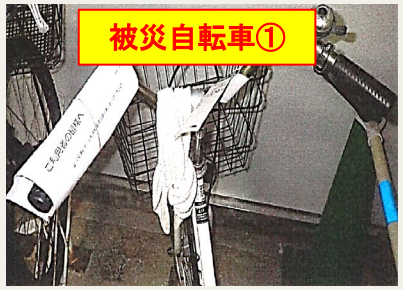


２階平面図

間仕切り壁



１階平面図



３．対　　策

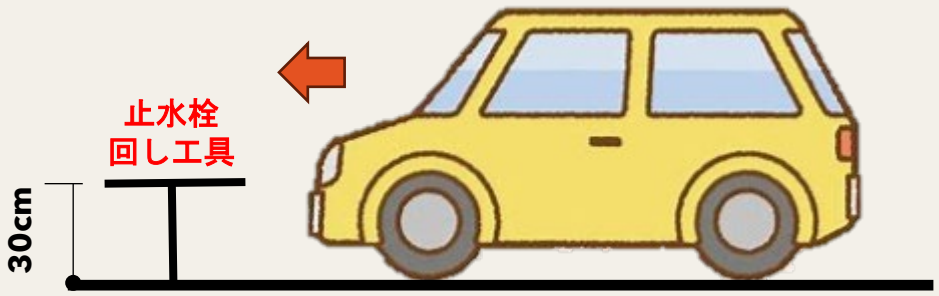
・強風時は作業を中止にする
（被災当日風速：5～6m/s）
・飛散が想定される範囲のバイク・自転車に養生カバーを掛ける
・水平、垂直用の仮設養生シートは、新品を使用する。（穴など開いて無いもの）
・安全監視員の配置（飛散状況監視含む）

１．事故概要

⑨敷地内の止水栓ボックスに止水栓回し工具を設置したまま現場を離れてしまい、地盤面から３０cm飛び出していた止水栓回し工具に施設関係車両が接触し破損した。

２．事故原因（無知・未経験・不慣れ）

・障害物を残したまま現場を離れた。カラーコーン等による障害物に対する目印が無かった。被災車両は障害物があるとの認識は無かった。（道路と見分けしずらい感もあります）



３．対　　策

・障害物がある場合は現場を離れない（厳守）
・カラーコーンにて目印の設置
・安全監視員の配置

１．事故概要

⑩武道場更衣室洗面所系統母管の水圧試験実施を関係者への周知不足から武道場更衣室洗面器から水があふれ出て床が水浸しとなった。

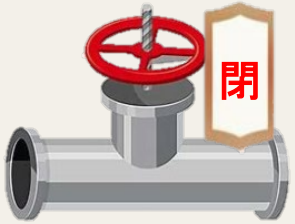
２．事故原因（連絡不足）

・断水作業について施設側に断水範囲と断水時間を周知していなかった。また断水解除後に水回りの確認を怠った。

時系列

業者側

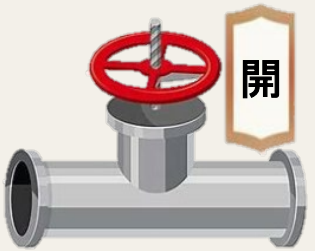
母管給水バルブ　閉



武道場　洗面器蛇口　閉

水圧試験

母管給水バルブ　開



武道場　洗面器蛇口　開

武道場　床
水浸し

施設側

・業者より、断水範囲と断水時間周知無し
・施設より、武道場の水栓が止まっていると業者側に報告
（武道場洗面器の蛇口は開いたままになっている）
・業者より、断水についての説明無し

３．対　　策

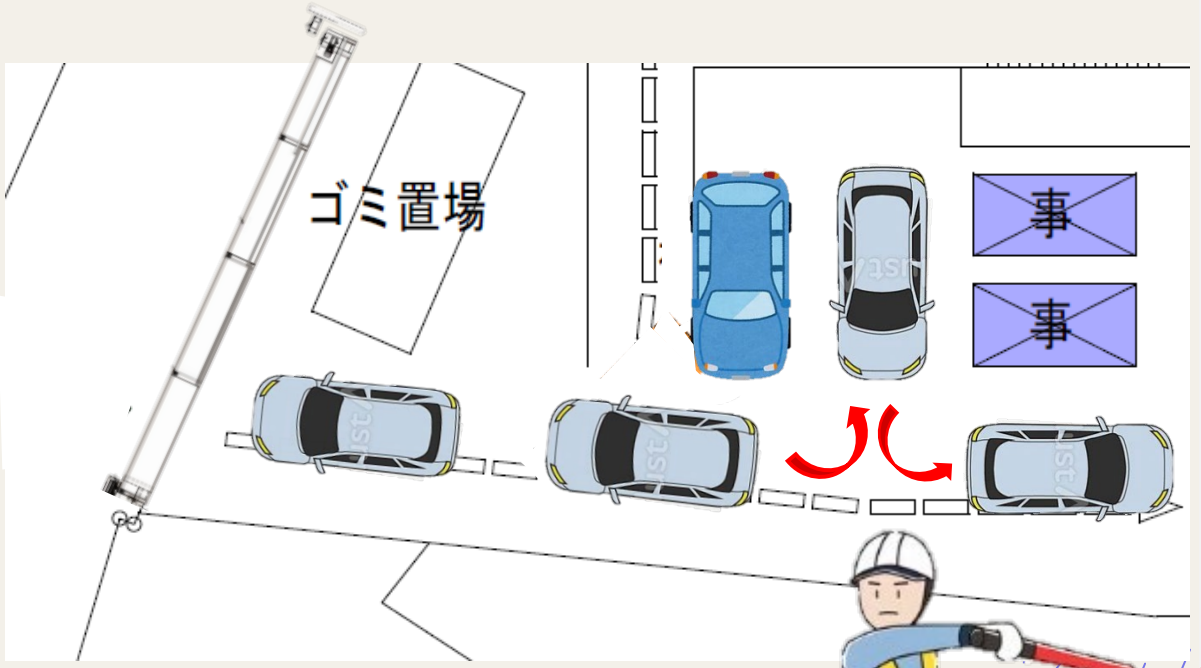
・断水作業時は、施設側へ断水日、断水場所、断水時間等、書面にて提出し了解後作業を行う。
・関係する全てのバルブ、水栓類、蛇口の場所に注意表示の掲示（厳守）
・系統バルブ開閉時は、水回りの確認を徹底する。（厳守）

１．事故概要

⑪作業終了後、車両に乗り込みバックで退場しようと右旋回した際に、右側に停車していた施設関係車両の右側バンパーに接触した。

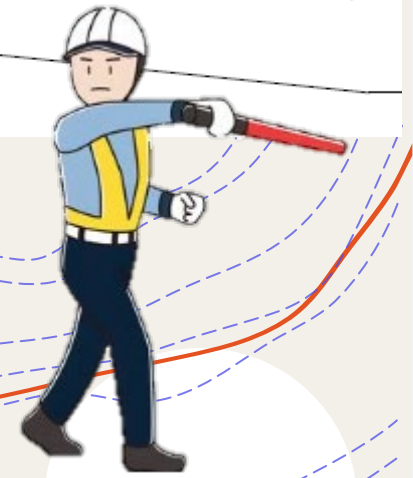
２．事故原因 （慣れによる手抜き・危険軽視）

・周辺状況確認不足、慣れからくる運転操作ミス



３．対　　策

・現場出向時に帰社しやすい様に駐車の向きを代えて置く。
・旋回、迂回時を考慮し事前に周辺状況の確認
・誘導員の配置（厳守）



ポンプ場・水処理施設　の　特性を把握する！

工事中のトラブルでブレーカーがトリップしてしまった場合

施設へ報告せずにブレーカーを復帰させてしまい、施設管理者から注意を受けた。

【良かれと思った行為が、裏目にでます。取返しがつかない事になります】

何が問題か？

- **設備異常は、集中管理室に自動通報される。**
- **原因を把握しないと、二次災害等の恐れがある。**
- **復旧操作等には、集中管理室の承諾が必要。**
- **別途工事へ影響することもある。**

許可なしにブレーカーを復旧するな!!

施設特有なルールがある場合、全ての作業員が把握
入所時教育やＴＢＭ・ＫＹ等で繰り返し周知徹底!!

事故連絡は待ったなし！

- 事故やアクシデントが発生したら、施設管理者へ報告するとともに、公社担当監督員に一刻も早く電話で報告してください。（１０分以内

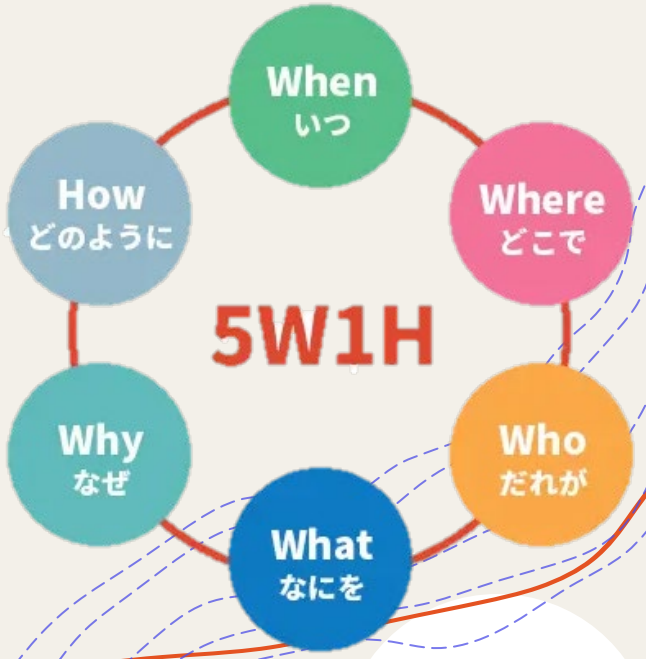
被災者が居た場合は、救護が第一優先されます。10分以内

・担当監督員に連絡[illegible]ない場[illegible]緊急連[illegible]体制表に基[illegible]、主任監督員、総括監督員へ速やかに電話で報告してください。

・万が一、応答がない場合も、繰り返し電話をしてください

・事故発生の報告は土休祝日、時間帯を問わずに！

- メールは厳禁（気づかない）



一人ＫＹ活動の推進!!

全体でのＫＹを受け、作業直前に自分の脳内で危険ポイントを予知する活動

朝礼で危険ポイントを口頭で言われるよりも、現場で自らが再度確認する方が、成果がある。

※一人ＫＹ活動の重要性について

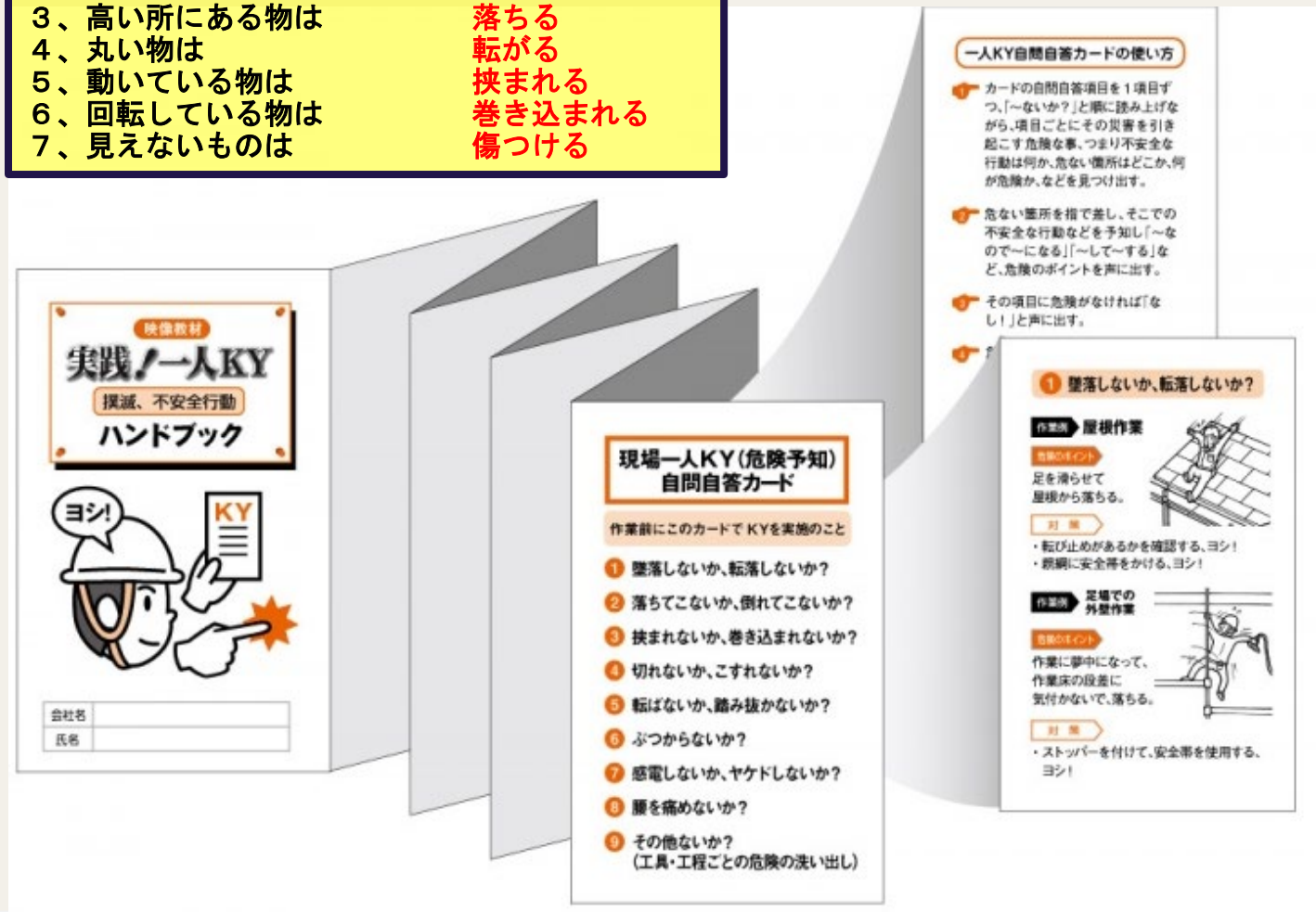
・自分で自分の身を守ることに繋がる

・形骸化・マンネリ化・やらされ感の払拭

保険による
リスクヘッジには
限界がある

危険予知７項目

１、立っている物は	倒れる
２、吊っている物は	落下する
３、高い所にある物は	落ちる
４、丸い物は	転がる
５、動いている物は	挟まれる
６、回転している物は	巻き込まれる
７、見えないものは	傷つける



無事故・無災害・無違反
ご安全に！

ご参加いただき
ありがとうございました。

本日の配布資料入手法

＜その他の資料＞

◆クールワークキャンペーン

厚生労働省のHPcoolwork2025_jp.pdf

◆工事事故災害防止〇別重点目標

担当監督員が配布します。

◆完成図書のデータ納品について

担当監督員が配布します。